

エスペラント



Verda Placo

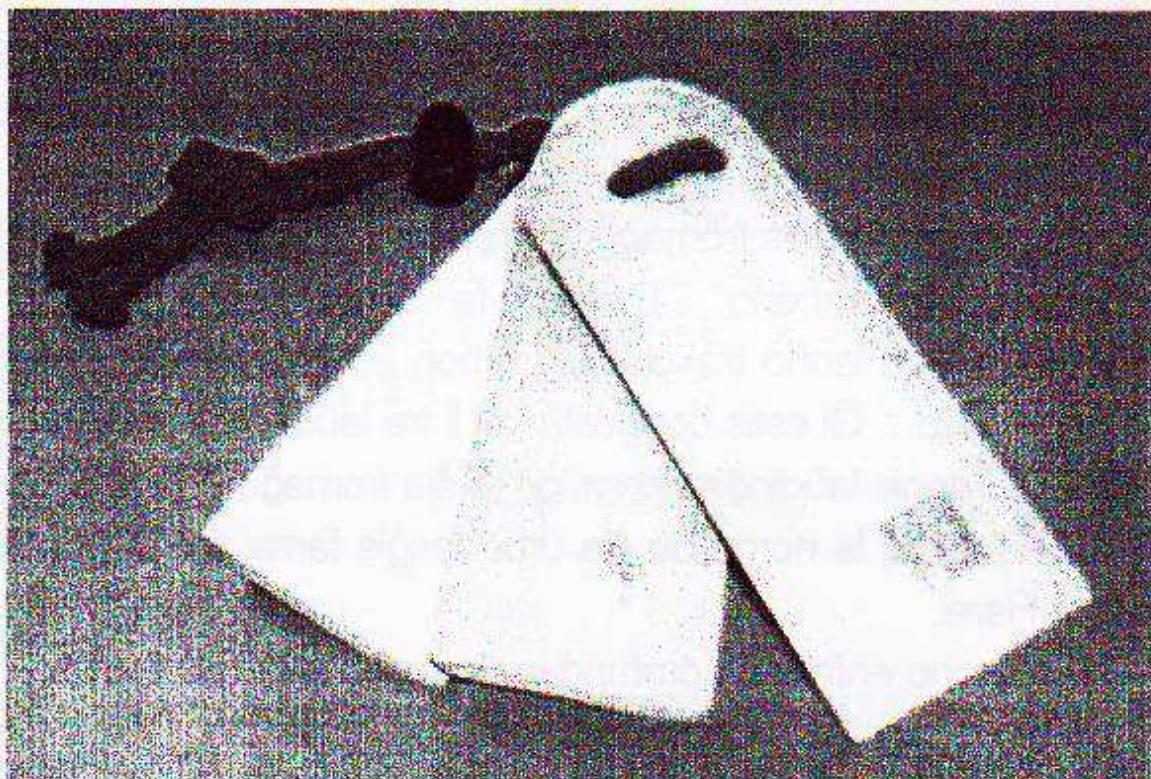
somero 2009

みどりのひろば

2009年 夏

N-ro 6

Harima Esperanto-Societo(はりまエスペラント会)



「阿弥陀さんば」

Amida·Sanba farita de Takeda Hanae

Fromaĝo

TADA-Rjujī

Fromaĝo estas manĝajo produktita el la lakto de diversaj bestoj, plej ofte de bovoj, sed ankaŭ de kaproj, ŝafoj kaj bizonoj. (Iaŭ Vikipedio)

Mi ŝatas manĝi fromaĝon. En miaj infanaj jaroj, mia patro ricevis fromaĝon de la okupanta armeo de Usono. Ĝi estis tiel malmola kiel sapo. Mi ne pensis ĝin bongusta, sed mia patro diris, ke fromaĝo estas bona por sano. Poste ĉirkaŭ dek kvin jaroj, mi estis dungita de kompanio, kiu produktas fromaĝon. Mi sentas tion fatala renkonto.

Unue, mi laboris por inspekti krudajn fromaĝojn dum tri jaroj en la kampanio. Poste kvin jarojn mi laboris por miksaranĝi fandan fromaĝon. Estas du specoj de fromaĝo. Ili estas kruda fromaĝo kaj fanda fromaĝo. Oni diras, ke fromaĝo en Japanujo estas plejparte fanda fromaĝo. Inspektoj de fromaĝo estas sentuma kaj kemia. Speciale, krudlakta fromaĝo estas taksata laŭ maturiĝo. Bone maturigita fromaĝo estas bona krudajo. Meksante kelkajn maturigitajn fromaĝojn, oni produktas bonajn fandajn fromaĝojn. Sentumaj inspektoj estas odoro, gusto, organizo kaj korpa ecaro. Meksaranĝisto de fromaĝo devas juĝi pri tutaj situacioj. Tiam maltrankvile, mi mem fabrikis por provo.

Kamemberto estas plej ŝatata el la fromaĝo, mi pensas. Ĉu vi scias fromaĝon de Napoleono? Ĝi estas kamemberto*. Estas du famaj rakontoj.

Unua rakonto: Kiam Napoleono trakuris iun urbon en Normandio, li ricevis fromaĝon de filino en la urbo. Ĝi estis bongusta kaj li tre laŭdis la fromaĝon. Li kisis ŝin sur la mano. Li donis laŭdindan premion al ŝia fromaĝo. Nomo de ŝia urbo estas Kamemberto. Kaj la nomo de ŝia urbo fariĝis fama pro la fromaĝo. Ŝia nomo estas Marie Harel.

Dua rakonto: Napoleono enfalis en profundan dormon en la batalkampo. Li estis tre laca. Li ne facile vekiĝis. Lia servisto estis tre malfacila. Kaj li pinĉis fromaĝon sur la tablo. Li portis ĝin al la nazpinto de la dormata Napoleono. Napoleono levis ŝin sur la lito kaj diris, "Josephine, ne plu en tiu ĉi nokto", kaj denove enfalis en la dormon.

Oni diras en Eŭropo: "Filino estas lakto." "Novedzino estas butero." "Edzino estas fromaĝo."

Proverbo ekzistas pri fromaĝo en la Proverbaro de L.L.Zamenhof.

"Nur pano kun fromaĝo, sed afabla vizaĝo."

*カマンベール

“Kial ni mangas?”について

これは、多田竜二さんの先生であった故川村信一郎香川大学名誉教授のエスペラント向けの講義ノートで、多田さんが、ガリ版からパソコンに入力して、冊子を作ってくれました。

テーマは、「人はなぜ食べるか」ですが、もちろん哲学的なものではなく、実用的なものです。食べたものはどのように消化され、吸収されて、「身につく」のか、といったことが分かりやすく話されています。

46年前に、亀岡で行われたエスペラントの合宿で話された「講義」のテキストだそうですが、その内容は、基礎化学の常識的な知識にも基いたもので、現在でもほとんどそのまま通用するようです。むしろ、昨今はやりの栄養補助食品（いわゆるサプリメント）が、いかに科学的根拠がないものかであるかを、この冊子から知ることができます。

もともと講演されたものですから、比較的易しい話し言葉で書かれています。また、巻末には、多田さんに作っていただいた専門用語や難しい単語の一覧表が付いています。

加古川の例会では、8月から、この冊子と一緒に読むことにしています。

KIAL NI MANGAS ?

??



Leciono de la kunsigado en Kameoka
la 23an de aŭgusto, 1963
D-ro Sinistru KAWAMURA,
Profesoro pri biokemio de Kagawa Universitato.

Sinprezento

CUKAMOTO Takeshi

Mi estas CUKAMOTO Takeshi, kiu nove aliĝis al la Harima Esperanto-Societo. Antaŭ ĉirkaŭ 40 jaroj, mi unue komencis lerni nian lingvon kaj tio helpis min lerni la germanan kiel la duan fremdlingvon.

La lingvo devas esti parola, mi kredas kaj kredis. Post kiam mi finis universitaton, ebligis aĉeti pli da libroj kaj uzi surbendigitajn voĉojn. Sed estis malfacile paroli, ĉar mi konis neniu esperanto parolanton. Mi preskaŭ vane ekzercadis prononcadon, ĝis mi havis la unuan ŝanco paroli kun alilanda esperantisto en Hiroshima. La ŝanco estis en kunsido kun vojaĝanto alilanda. Tiam mi vere miris, ke mi povas parole komuniĝis kun

alilandano per Esperanto. Kvankam mi ĝis tiam ne havis ŝancon paroli, ni povis interkompreniĝi en nia lingvo.

Mi jam longe memlernas Esperanton, sed ne tre diligente kun multe da ripozoj. Kaj mi havas TTT-paĝon. Bonvolu viziti ĝin! <http://takion.net/>

La TTT-paĝo estis farita unue por franca leteramiko, bedaŭrinde jam longe ne ĝisdatigita.



塚本猛さんは、5月に入会。塚本さんは、山陽電車の中でエスペラントの雑誌を読んでいる峰に声を掛けてきた方で、明石市東二見にお住まいです。

(写真は2009年3月、姫路国際交流センターの展示会場で撮影)

Rememoro de mia patrino (5)

Tokie Baba

Kiam miaj gefiloj estis infanoj, kaj venis la someraafero, mi iris al la geptra domo kun miaj gefiloj. En tia okazo, mia patrino atendis nin, kaj ŝi ĉiam kuiris fritetitan somenon. Tio estas simpla kuirado, sed malfacila kuirado por mi.

Unue, ŝi boligis somenon malmola.

Due, ŝi frietis ĝin rapide, kaj ŝi gustigis per sojo kaj *ajinomoto*.

Trie, ŝi servis ĝin kaj metas tranĉitan ajlon malgrande sur someno.

Miaj gefiloj mangis ĝin ĉiam volonte. Kelkfoje, ankaŭ mi kuiris ĝin sed mi ne povas kuiri kiel la patrino. Miaj infanoj diris; ne estas avina someno.

Longan tempon mi pensas, ke ĝi estas patrina originalo. Ĉar mi ne vidas tian somenan kuiradon ĝenerale. Mia gepatra hejmloko estas Amami-oosima. Antaŭe patrino, mia familio, pli maljuna frato kaj maljuna fratino kaj sia edzo kune vojaĝis al Amami-oosima. Tiam mi vidis "abura-zoomen" (ole-someno) en menuo de restoracio. Ĝi estas respektinda kuirado.

Si venis al mia domo kun la geedzoj de mia pli maljuna fratino en novjaraj tagoj en la jaro de sia morto. Tiam ni iris al Himeji-kastelo. Pli maljuna fratinaj geedzoj kaj mia edzo vizitis en kastelon. Patrino kaj mi atendis ilin en Kookoen. Tiu tago estas tre malvarme. Ni mangis varman somenon tie. Ĝi estas speciala mangajo tie. Si ĝojis kaj diris, "Varma kaj bonguta".

Tio estas sia lasta eliro. Post tiam, si malsaniĝis kaj kuŝis en lito ĝis la morto.

Avino kuſis

Nepo lasis lampirojn

En la ĝardeno

飲酒は神事である

曲田忠房

わが国で酒が多量に造られるようになるのは、稻作文化の渡来を待ってからで、縄文時代末期になってからだといわれている。しかし、人々は稻作が定着するとすぐに酒を造って飲んだようだ。このころの酒は、米をかんで唾液とともに吐き出して発酵させたものである。魏志倭人伝には、邪馬台国の女王卑弥呼が「鬼道につかえて能く衆を惑わす」とあり、葬儀に集まった人々が「歌舞飲酒す」という記事もあるそうだから、この頃はには普段から相当量の酒が蓄えられていたのだろう。この時代のシャーマン達は、儀式が行われる機会をとらえて陶酔した人々を前に、自らも狂乱状態となって神のお告げを伝えていたのだろう。そしてこの頃から人々は、酒をかいして神の領域に近づいていく。

酒造りの方法も少しずつ発達していくと、人々は酒造りの成功を神に祈るようになり、やがては酒造りの神を祭った神社が現れてくる。新酒が作られると、人々は必ず神社に奉納して酒造りの成功を祝い、酒と神社の関係は深まっていった。現在でも、祭礼には氏子たちがドブロクを掛け合う行事が各地にある。このような神社は酒そのものがご神体なのだろう。私もこのような神社の氏子にならなつ

てもよいと思う。

平安時代になり酒の生産量が多くなると、貴族の間で花や月にかこつけて遊びとしての飲酒も行われるようになるが、その後、勢力をつけてきた武力集団である武士たちに飲酒はかなり荒っぽいものであった。それもそのはず、自らがいつ神様になってしまふのか分からぬ身にとっては、神事としての飲酒にも力がこもったことであろう。その後、武家社会が安定してくると、飲酒も管理されたものになり、豪快ではあるが静かに神と接する作法が定着する。

しかし、武家社会も終わりに近づく幕末になると、一部の武士たちの間に再び荒々しい神事としての飲酒が流行するようになる。京に流れ込んだ志士たちは、遊郭や門前の料理屋で他藩の志士たちと酒を飲みながら情報を交換し、神のお告げを受けて天誅を下すべき相手を求めて京の町をさまよい歩いた。その他、映画やドラマではたくさんの中景を見ることができる。酒樽を開けてのヤクザの出入り場面は景気がいいが、特攻隊の出撃風景は湿っぽい、ほとんど全員神様になってしまふのだから、酌み交わされているのは水杯なのだろうが、人生最後の一杯が水では情けない。

さて、私の神事は、日没時から始まって二時間くらい続き、神の領域に近づくための前半の道中は楽しいものである。しかし、神の領域に一步足を踏み入れ神のお告げが聞こえてくると、だんだんと楽しいものではなくなっていく。もう二度と思い出したくもないような過去の醜い行為や恥ずかしいことが、次から次えと頭の中に浮かんでくる。神様はまだ、私の過去の罪深い行為を許してはいないのです。

以前にロマの演奏活動を記録したジプシーキャラバンという映画を観たことがある。その中でロマの長老が言っていた「白髪は人が賢者になったしに神様から与えられたものなのだよ」という言葉を思い出す。私はまだ、両髪を白髪が覆うまでにいたっていない。そのうち神様から許されて賢者の仲間入りをし、過去のいやな思い出が頭の中から消え去るまで、私はこれからも神事に励まなくてはならない。

初めての世界大会に参加して

吉田信子

会場は、ザメンホフ生誕の地、ポーランドのヴィヤリストクという田舎の町です。工科大学の玄関が受付、教室が分科会室という事で、部屋を探すのが分りにくかった様に思いました。開会・閉会・Nacia Vespero が催されたメイン会場は、大きなテント張りで床も板張りでした。校庭の草地には愛らしい草花が咲き、ナナカマドも色づき、空は青く高く、爽やかな秋の気配でした。

私は、大本のエスペラント普及会（EPA）のグループ10人でOomotoの分科会を担当しました。大本紹介のほかに、日本文化として茶道と仕舞も披露し、100人ぐらいの参加者に喜んで頂きました。不勉強ではありましたが、勇気を出して話しかけていき、とても楽しく過ごせました。

カテリン・コバチ女史の授業を2回受けたり、街の人形劇場に出向いて大人が深く感じる人形劇も観ました。

ちょうどバカンスの季節であったのですが、市を挙げての歓迎行事も多く、広場には仮設の大きなステージが設けられていて、黄昏の頃から、オーケストラによる「第九」の演奏もあり・・・、充実した7日間でした。

街路には、林檎がたわわに実り、花は咲き、森は美しく、古い教会や宮殿なども復元され、市民はゆったりと生活している様に感じました。

一日遠足で行った森には、バイソンなど多くの生き物が棲んでいるとの事でしたが、見かけたのは鹿だけでした。ロシア聖教やユダヤ教の寺院も訪ね歴史を感じました。道中は麦畑が多く、コウノトリが自然に、村人の生活の中に溶け込んでしまった。

今回の旅で心に残ったのは、ひとつの言葉の素晴らしさは勿論ですが、ワルシャワ・ゲットーから列車で送り込まれ、唯、死ぬ為にだけに、8万のユダヤの民が集められたというトレブリンカの参拝です。予定コースには無かったのですが、私たちは慰靈に行かせて頂きました。ここも空は青く、草花が咲き、子供たちはレールのモニュメントで遊んでいました、あの「ドナ・ドナ」は、ここを歌ったものだそうです。



写真1：前列右が筆者の吉田信子さん。その後ろに立っている眼鏡の男性は、ザメンホフの孫のザレスキー=ザメンホフさん。

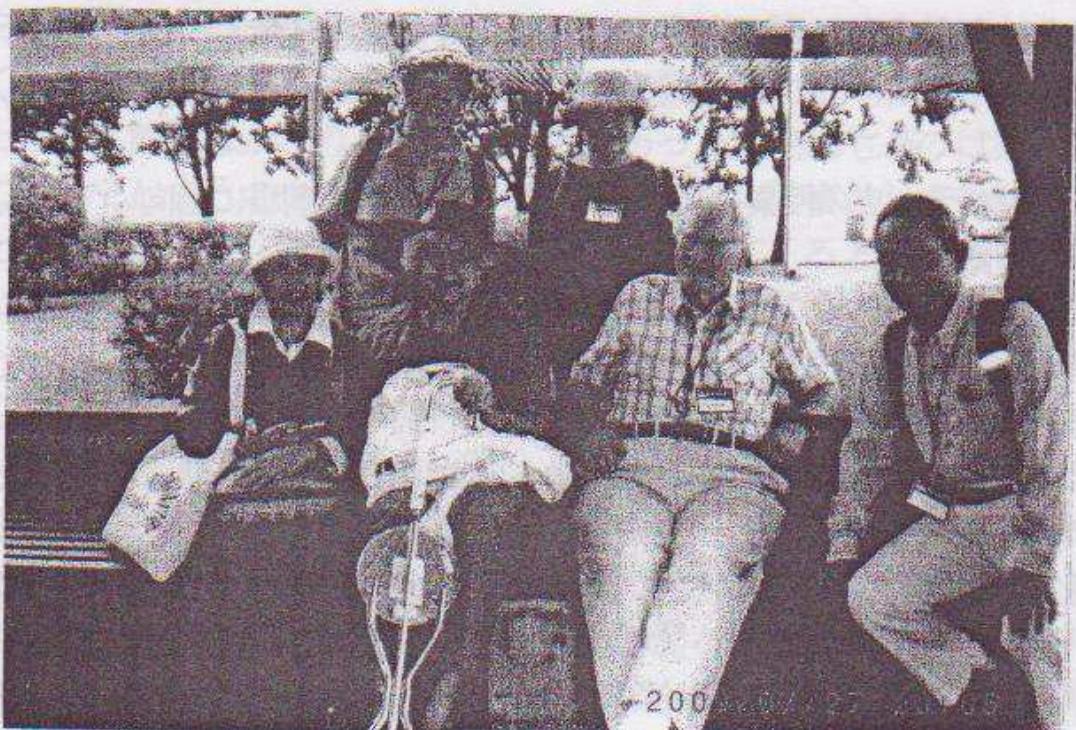


写真2：アメリカから参加の夫妻と一緒に。前列右端は、吉田公夫さん。S-ro Yosida Kimio estas la edzo de sino Yosida Nobuko, la verkinto de la raporto. Laŭ lia edzino li komencis memlerni Esperanton antaŭ sep monatoj por partopreni la kongreson。

向井孝さんとイオムのことなど

峰芳隆

3月に兵庫県立美術館原田の森ギャラリー東館で開催された『リアリズムの詩人たち展』の案内書の「詩人集団イオム同盟」の項に、「(向井孝と山口英は)ともにエスペラントを学び、アナキズムに接近し、さらに「因みに IOM という語は『ちょっとだけ』というエスペラントの相關詞である」と記されていました。また、同展を報じた『神戸新聞』3月10日号には、「企画担当の松尾茂夫・県現代詩協会副会長の「時代は異なるが、賀川（豊彦）の世界連邦運動などはイオムのエスペラントへの取り組みにも通ずる」という言葉が紹介されていました。

向井孝さんは、1965年5月の姫路エスペラント会の創立に最初から加わり、会長と会の事務所と広報を引き受けってくれました。当時の向井さんは、たしか、姫路市白浜町にあった近畿丸製ナット工業組合（あるいは近畿製鎖共同組合？）の事務局長だったと思いますが、姫路では詩人として名が知られた文化人で、市役所などにも顔が利くようで、講習会の後援も教育委員会からもらっていました。

ある時、向井さんから『イオム同盟詩集』をいただきました。「詩人集団イオム同盟」

の詩集で、「イオム」は、エスペラントの iom であると聞きました。また、B4 判ガリ版刷りの個人誌 “IOM”（イオム通信）も、もらいました。向井さんはその後、大阪に移りアナキズム運動に専念したようですが、そこでも “Saluton”（サルートン通信）という個人誌を出していました。ときどき、その個人誌や出版した本などを送っていました。その中には、『向井孝の詩集』がありました。それは、小さな手作りのガリ版の本ですが、まるで職人芸でした。

しかし、今、私の手元にはそれらの資料はありません。2005 年 5 月に、姫路文連の創立 40 周年記念の姫路フェスティバルに展示した後、思いついて、姫路文学館に寄贈しました。問い合わせると、是非にと請われました。

なお、同文学館には、日本文学の翻訳書である”El Japana Literaturo”、“Postmilita Japana Antologio”なども寄贈しました。また、その後、2007 年春に、同館で、特別展「新美南吉 ごんぎつねの世界」が開催された時には、「ごんぎつね」を含む南吉童話のエスペラント訳”Gon·Vulpo”を提供しました。その本は、この展覧会の中では、「エスペラント訳」と記されて展示されました。

（この原稿は、手元に資料がないため、記憶に頼って書いていますので、間違があるかも知れません）

竹田華恵さん「蓮の池コンサート」に出演

7 月 25 日、高砂市阿弥陀町で開かれた「蓮の池コンサート」という野外コンサートに、会員の竹田華恵さんが出演しました。

会場は、一面が蓮の花の大きな池のほとりで、たそがれはじめた午後 6 時に開演。あいにくの雨上がりでしたが、200 人を超える観客でにぎわっていました。

これは、沖縄の楽器、三線（サンシン）奏者の来生享子（きすぎ・きょうこ）さんとその仲間による手作りのコンサートで、今年で 3 回目だそうです。

出演は、神戸や姫路で活動している、Mon Dieu（モン デュー）、Tender Notes（テンダー ノーツ）、磯島よしひろ東町待合楽団、OKyou & Friends（来生享子とその仲間）の 4 組のグループで、いずれも若者が演奏する楽しい音楽でした。その中で、竹田さんは、「おきょうさん」と呼ばれている来生享子さんとの共演です。

はじめに、「阿弥陀さんば」の紹介と「三線」との合奏がありました（写真の右端が竹田さん）。

「さんば」は、沖縄のカスタネットのような打楽器「三板」（サンバ）で、もともとは黒檀やカリン等の堅い木で作られていますが、「阿弥陀さんば」は、それを竹で作ったものです（写真）。これは、来生さんが始めたもので、竹田さんはその「さんば」作

りにも参加しているそうです。名付けて「阿弥陀さんば」は、孟宗竹を切り出すところから、すべて手作りとのことです。竹田さんが、例会や昨年のザメンホフ祭でも紹介されたがあるので、ご存知の人もあると思います。

この「阿弥陀さんば」を使ったボランティア活動が、6月26日、NHKテレビの夕方6時のローカルニュースで紹介され、その中に竹田さんの姿もあったそうですが、私は見逃しました。その後、7月1日の朝5時30分の全国ニュースで再放送されるお聞きして、朝早く起きしたのですが、この時は「おきょうさん」中心で、竹田さんは写りませんでした。全国版は、再編集されて短くなっていたそうです。

竹田さんは、「阿弥陀さんば」以外に、来生さんとその仲間たちと一緒に、得意のヴィオリラで、「燕になりたい」と「カルメン」の「ハバネラ」を合奏しました（この時の写真は、残念ながら撮影に失敗しました）。

(峰芳隆)



Enigmo: Kio mi estas?

N-ro 1

de SAKAMOTO Tošiaki

Dum longaj jaroj mi logis en la tero. En iu tago mi elrampis de la tero kaj grinpis arbon. Mi ŝangigis sian korpon sur la arbo. Mi kriegas energie. Ho, malbenite! Mi estis kaptita de kanabo.

N-ro 2

de SAKAMOTO Tošiaki

Mi ĉiam logas en la tero. Mi ne havas piedojn, manoj kaj vizaĝon sed buŝo ekzistas. Ho, malbenite. Mi estis kaptita de knabo. La knabo pikis min al la hoko kaj jetis en la lageton kun la fadeno. Dika karpo mangis min. Ho, Dio.

N-ro 3

de SAKAMOTO Tošiaki

En la frua somero oni enplantas mian plantidon. Mi dikiĝas en la tero dum la somero. Aŭtune multaj infanoj vizitas kaj elfoſas min en la kampo. Infanoj revenas kun mi al la domo kaj la patrino kuiras min. Ho, Dio!

学習例会の記録と予定

Kiam, kie, kiuj kune lernis? Kiam, kie ni kune lernos?

実績（出席者）

<姫路：国際交流センター>

4月 16日：大前，木根，久保田，小西成，吉田，峰

5月 21日：大前，久保田，小西美，中村，馬場，吉田，峰

6月 19日：久保田，小西成，小西美，中村，馬場，峰

7月：休み

<加古川：加古川総合文化センター>

4月 26日：坂本，多田，南場，曲田，峰

5月 18日：多田，塙本，南場，馬場，曲田，峰

6月 15日：坂本，多田，塙本，南場，曲田，峰

7月：休み

Kiu, kiel...

馬場祝栄さんは、5月から姫路にも出席。仕事を辞め、平日の出席が可能になったそうです。

松田邦子さんは、再就職され、新しい仕事の都合で、例会には出て来れなくなったとのことです。

今後の予定（8月～11月）

★姫路(午後2時～4時, 姫路国際交流センター第4会議室)

8月 27日 (第4木曜日)

9月 17日 (第3木曜日)

10月 29日 (第5木曜日)

11月 26日 (第4木曜日)

姫路では、8月から”Hanako lernas Esperanto”で、基礎からの再学習をします。このHanakoは、以前、加古川の学習会で読んでいたものです。現在、姫路で集まっているほとんどの人には、初めてのテキストなので、復習を兼ねてこれを読むことにしました。

★加古川(午後2時～4時、加古川総合文化センター会議室3)

8月 23日 (第4日曜日)

9月 27日 (第4日曜日)

10月 25日 (第4日曜日)

11月 29日 (第5日曜日)

加古川では、8月から”Kial ni mangas?”を読みます。

La solvo de la enigmo

n-ro 1 cikado n-ro 2; tervormo n-ro 3; batato

編集ノート

英語のアルファベットで一番頻度が高く使われる文字は“E”だそうです。たんぱく質を構成する 20 種類のアミノ酸中で一番頻度が高いのは、国際的取り決めで“E”であらわされるグルタミン酸だそうです。このグルタミン酸は馬場さんの「そうめん料理」にある“うまみ”成分の化学調味料「味の素」の主成分です。グルタミン酸を食べると頭が良くなるという昔の話を思い出します。もちろん、この話はウソです。人間の体そんなに単純なものではないようです。

やはり、川村先生が”Kial ni manags?”で言っているように、たんぱく質、糖類、脂肪+ビタミン類をバランスよくとることのようです。特に高齢者は良質のたんぱく質が必要で、その優良食品が Froma o をはじめとする乳製品だと多田さんは言っています。

日本では、たんぱく源として魚のほかに豆類を良く食べますので、

En japanio oni diras : Filino estas sojfabo lakto. Navedzino estas tofuo.

Edzino estas sojfabfermenta o. というところでしようか。

今回多くの原稿を寄せていただきありがとうございました。

秋号は10月20日までにお寄せください。

★★

“Verda Placo” (みどりのひろば) n-ro 6

2009年8月20日

発行：はりまエスペラント会 代表 峰 芳隆

高砂市北浜北脇 29-16

編集：南場 敏郎 加古川市平岡町城の宮 13A-102

nanba.tosiro@w8.dion.ne.jp

エスペラント



Verda Placo aŭtumo 2009

みどりのひろば

2009年 秋

N-ro 7

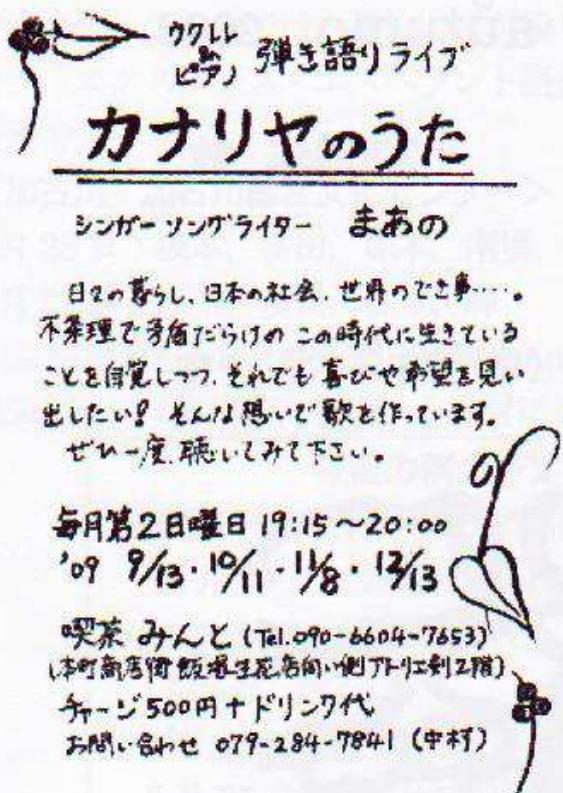
Harima Esperanto-Societo (はりまエスペラント会)



木版画 中村雅子さん
lignogravura de s-ino Nakamura Masako

中村雅子さん

弾き語りライブ「カナリアのうた」



4月19日に、La Unua Koncerto de Mano (N-ro 4の報告参照) を開いたシンガーソングライターのまあの (=Mano) こと中村雅子さんが、9月から、毎月第2日曜日の夜、ウクレレとピアノ・弾き語りライブ「カナリアのうた」を始めました（案内状参照）。

会場の「喫茶 みんと」は、例会に使っている「イーグレひめじ」の近く（駅から御幸通りを通ってイーグレに行く途中）にある。

階段を上って2階があるので、ちょっと分かり難いが。

Malgranda vortaro de mia patro

BABA Tokie

Mi ne konas vizgaon de mia patro, ĉar li mortis en Siberio en la jaro 1946. Li estis vokita al la militoservo, kiam mi estis kvardektaga bebo. Tiam li metis sian manplaton sur mian frunton kaj diris: via frunto estas mallarĝa. Tion ĉi mi aŭdis de la patrino plurfoje. Tial ŝajnas al mi, ke mi memoras manplatan varmon de la patro.

Kiam mi ekfervis Esperanton, mia pliĝa frato sendis al mi malnovan vortaron de Esperanto. Ĝi estis vortaro de mia patro, sed tre malgranda kaj cifonita. La kovrilo estis ŝirita. Sed ĝi estas memorajo. Mia patrino havis ĝin dum longa tempo, kiel memorajon de sia edzo.

Mi petis riparon al presisto. Pasis kelkaj tagoj. Ĝi revenis al mi preskaŭ ŝangigante. Ĝi fariĝis bela kaj fortika. Due mi petis al mia amikino fari libroŝirmilon de teksaĵo. Si estas bona kudristino.

Komence mi ŝatas ĝin kiel amuleton, ĉar ĝi estas tre malgranda. Sed nun ĝi estas tre oportuna. Ekzemple, kiam mi legas "La Movado" en atendejo de hospitalo, mi povas konsulti ĝin pri nekonataj vortoj. Ĉiam mi havas ĝin en mia sako. Kiam mi malfermas ĝin, mi trovas liniojn, kiujn mia patro krajonis. Ankaŭ, mi trovis literojn de lia utao sur alia flanko de la kovrilo. Ĉi tiu afero ĝojigas kaj faras min feliĉa. Nun ĝi estas trezoro por mi.

El proverbaro kompilita de Zamenhof

MAGATA Tadafusa

"Fiô sen vino estas veneno."

Mi tamen ne povas bone kompreni. Salo estas ĉefo el cent kunmanĝajoj de sakeo. Kaj plej malkare bongusta estas akvo. Aŭ pli malkare bongusta estas onidira parolo. Sed post drinkado via koro estos ~~vabta~~. Aŭ ĉu rizajo estas pli bongusta?

* * Vanta *

深沢七郎の「庶民列伝」には、一家の大黒柱を亡くした隣家に「気の毒にようみんなどうしたらいいかわからねえで泣いているだけだわ」と言いながらえるオッカアの話がでてくる。庶民にとって他人のショットした不幸や混乱した事態は案外心地よいものかもしれない。ましてやウワサッパナシになればついつい身を乗り出してしまう。正にメシウマである。

のりピー騒動では、書き込みで2チャンネルがブレイクした。箸の上げ下ろしまで売り物になる相手だけに、書き込まれる話題もこの上なく賑やかである。そして、二・三日後にその話題のうち無難なものがテレビのワイドショウで放映される。テレビに岀ている出演者は、いわゆる有識者と言われる人達なので説教くさい解説しかいけれど、噂話で飯を食っていることには変わりない。

私はと言えば「のりピーの純情派人生は仮の姿なのだから、後は極道の女で生きたほうが気楽だよ」などとテレビに向かって話しかけている。

Mem faru! (1) Makettrajno

TADA Rjuji

Makettrajno estas hobio, kiu estas populara en Eŭropo de antaŭ pli ol centjaroj.

Makettrajno estas laŭskale malgrandigita reproduktado de originala trajno. N-ŝpuro de makettrajno estas plej facila kaj populara en Japanio. N- ŝpuro havas ŝpuron de 9 milimetroj .N estas inicialo de Nine (naŭ) .N- ŝpuro estas modelo en skalo de 1/150~1/160.

Ĉefaj elementoj de reproduktajo estas trajnoj, konstruaĵoj kaj pejzaĝoj.

La konstruado, aranĝado kaj uzado de tiuj makettoj iĝas hobio por multaj homoj.

Ni ĝojas fari modelojn samaj kiel realaj objektoj. Krome modelo de pli granda skalo makettoj povas esti allogaĵo, ĉu por turismaj lokoj, ĉu vilaĝoj, ĉu urboj, ĉu stacidomoj, ĉu paŝtejo ktp.

Oni povas regi repodecon de trajnoj aŭ permane aŭ duonaŭtomate per regpanelo aŭ tutautomate per relajsoj, elektroniko kaj/aŭ komputilo.

Mi faras Esperantan vilaĝon (fotoj)

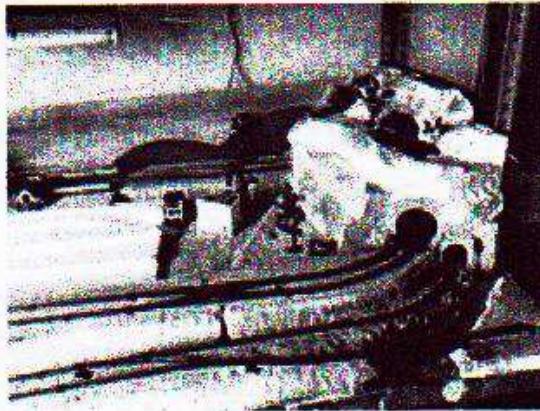
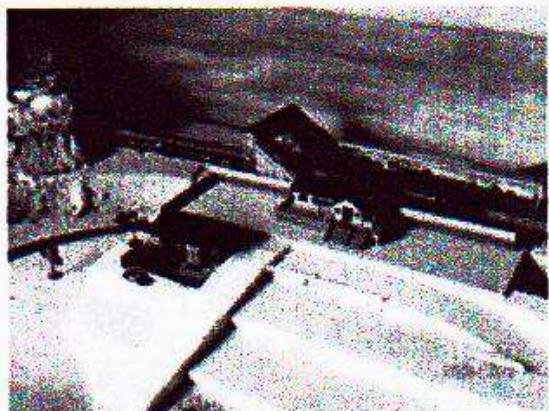
Nun, mi vendas poparte la teron (spacon) en la Esperanta vilaĝo. Kompreneble, ĉi tiu parto estas nefinita kaj kulturata. * N· ŝpuro (Nゲージ) N軌間

Foto : Teropecoj antaŭ la stacio estas vendataj per "Espero·Hudousan".

好評分譲中 エスペラード不動産

Foto : Terasaj rizkampoj estas farotaj. 棚田を作る予定

注) Maketo estas tridimensia laŭskala reprezentado de objekto.



Vitroperlo de maroluno

「峰さん。水上（ミズカミ）です。ご無沙汰しています！ ご記憶でしょうか？」

9月末のある日、若い女性の声で、そんな電話が掛かって来た。「水上さん？」。とつさには思い出せない。名前も声も。しかし、話しているうちに思い出した。何年か前、プリザーブト・フラワー作りを始めるのでそれにエスペラントで名前を付けたい、という相談の電話をしてきた人である。しかし、それっきりであった（後で聞くと、その時は arbo と名付けたそうだ）。

今回は、「トンボ玉」作りで、10月10日～11日「KOBE トアロード クラフトアートフェア」に出展するので、それに向けてホームページを作る。については、それにエスペラントで名前を付けたい、という相談であった。その水上さん自身、インターネットで調べて、トンボ=libelo, 玉=buloを見つけていたので、libelo-buloでしょうか？

という。

しかし、「トンボ玉」というものを知らない。説明を受けて、ビー玉に孔をあけた形の装飾品と分った。しかし、libelobuloは、直訳だ。buloも「団子状のもの」でちょっと違う。球状のものは globo か globeto。ガラス玉という意味で vitro-globo かな。そんなやり取りをしたが名案が浮かばない。

考える時間を貰うことにして、電話を切って、水上さんのブログ <http://d.hatena.ne.jp/maroluno/> を拝見した。トンボ玉作りの仲間と二人のコンビに maroluno という名前をつけている。maro は水上さんの、luno はその仲間のブログ名だそうだ。そのブログで、トンボ玉というものを初めて見た。きれいだ。ひとつひとつ手作りで、ひとつとして同じものがない。

インターネット上の百科事典「ウィキペディア」で調べると、何と、その「トンボ玉」に相当するエスペラントのページが見つかった。Vitroperlo (vitro=ガラス, perlo=真珠、パール) とある。これは、なるほど上手い命名である。（「ウィキペディア」には、色んな言語版があり、その中にエスペラント版もある。詳しいことは、“La Movado”2008年9月号参照）。

その他にも、Vitro-bido (bido=ビーズ) も使えるのではないか考えて、水上さんには、その二つを提案した。水上さんが仲間と相談して選んだのは、やはり Vitroperlo であった。

そんな経緯で、トンボ玉制作ユニット maroluno の Vitroperlo のホームページ <http://www.vitroperlo.com> (写真) が開設された。そこには、次のように書かれている。

<Vitroperlo (ヴィトロペルロ) は、maro と luno の2人によって結成された制作ユニット。とんぼ玉を中心に作品づくりをしており、さまざまなアートイベントやフリーマーケットにも参加しています。

ユニット名の由来はエスペラント語。直訳すると「ガラスの真珠」というこの言葉が、エスペラント語では「とんぼ玉」を意味します。

ちなみに、「maro」と「luno」もそれぞれ「海」と「月」を意味するエスペラント語です。>



なお、maro こと水上満里子さんは、10月1日、イーグレ姫路の例会に来られたので、エスペラントの概要をお話しました。

Gastoj en Himezi

Franca juna paro : フランスのティボ・クルー (Thibaud Clouet) とエミリ (Emilie) の新婚夫婦 (写真) が、9月 14 日姫路へ。前日、神戸の藤井富朗さん宅に宿泊。当日は、藤井さんの車で姫路へ。峰は他用で行けなかったので、岡山の原田英樹さんにお願いした (原田さんは姫路医師会勤務)。二人は原田さんと馬場祝栄さんの案内で姫路城見物後、原田さんと一緒に岡山へ。



Germana maljuna paro : ドイツのリュディガー・ザクス (Rüdiger Sachs) とクリスティン (Chrestine) の老夫婦が、10月 16 日姫路へ。お二人は、甲府で開かれた日本エスペラント大会に参加した後、大阪・神戸から岡山・広島へ。その途中に姫路城を見物。前日はやはり藤井さん宅に一泊。原田さんと峰がイーグレ姫路に案内。そこで大前知子さん、吉田信子さん、馬場さんに迎えられ、その屋上から姫路城のパノラマを背景に記念写真 (写真) の後、姫路城へ。80歳前後の高齢であるが、天守閣にも登るというので、天守閣の最上階までお付き合い。ご満悦であった。その後、和食の「かごの屋」で遅い昼食。次のような話をお聞きした。

第二次大戦でソビエトの捕虜になり、モスクワの南の収容所で3年間の強制労働の後、ドイツへ帰国。二度と戦争を起こさないためには、互いに理解するための共通の言語が必要と考えてエスペラントを学んだ。奥さんもエスペラントができるので、お聞きすると、婚約時代にエスペラントを勧めたそうである。大学で医学を学び、アフリカ各地で風土病の医師として勤務。あの、シュバイツァー病院にも居たことがある。アフリカで生れた5人の子供は現在、世界各地で活躍している。



エスペラント祭

今年は、関西エスペラント連盟（KLEG）の加盟ロンド（グループ）の合同ザメンホフ祭が、次のように「エスペラント祭」として、神戸で開催されます。

参加費は無料。会員はもちろん一般の市民にも公開されますので、お知り合いの方にもお勧めください。

エスペラント祭

日時：12月13日（日）午後1時～4時30分

会場：神戸市青少年会館（三ノ宮駅から南東へ徒歩5分）

主催：関西エスペラント連盟、神戸エスペラント会

参加費：無料

内容：寺島俊穂さんの講演「平和学からみたザメンホフ」

世界エスペラント大会旅行団の報告、各グループの発表など。

Enigmo: Kio mi estas?

de Sakamoto Tošiaki

N-ro 1

Mi estas nuna sezona frukto de aŭtuno ĝis vintro. Japanoj tre ŝatas min, precipe virinoj emas. La gusto estas iom acida, iom dolĉa. Oni povas demeti la selon per la manoj. En la tempo de novjaro, tiel necesas kiel ĉiuj hejmoj bezonas. Ju pli manĝu min, des pli vi fariĝus bela.

N-ro 2

Mi estas manĝajo el rizo. Mi estas mora, dum kiam mi estas varma, sed malmola tiam mi estas malvarma. Se vi volas manĝi min kun rapida apetito, vi devas atentema pri la stopiĝo de gorĝo. Oni diras, ke leporoj produktas min sur la luno. Ĉu vere?

N-ro 3

Mi vivas en akvo aŭ sur tero. Paŝoj aŭ kurado estas miaj malfortajoj sed naĝado estas ne tiel. Mi havas fortan selon. Se mi sentas danĝeron, mi tuj entiras la kapon aŭ membrojn en la selon. En iu tago mi defuis la leporon pri kurado. Kaj mi venkis pro la daŭra klopo.

Solvo: N-ro1 japana orango N-ro2 močio N-ro3 testudo

学習例会の記録 Kiam, kie, kiuj kune lernis?

〈姫路：国際交流センター〉

8月27日：大前、久保田、竹田、中村、馬場、吉田、峰

10月1日：大前、木根、久保田、小西成、中村、馬場、吉田、峰

※9月は17日の予定でしたが、都合で中止。代わりに10月1日に開催しました。

姫路では、8月から“Hanako lernas Esperanton”という初心者向けテキストを読んでいます。この本では、易しい文が繰り返されています。そのため、すでに読み終わった『エクスプレス・エスペラント語』の「解説」ページで文法の復習をしながらの復習です。

〈加古川：加古川総合文化センター〉

8月23日：坂本、多田、塙本、南場、曲田、峰

9月27日：坂本、多田、塙本、峰

加古川では、8月から“Kial ni mangas?”（前号参照）を読んでいます。また、La Movadoの「実用作文教室」も教材にしています。

今後の例会予定（10月～2010年3月）

★姫路（午後2時～4時、姫路国際交流センター）

10月29日(第5木曜日)

11月26日(第4木曜日)

(12月 休み)

1月 28 日 (第4木曜日)

2月25日(第4木曜日)

3月18日(第3木曜日)

★加古川（午後2時～4時、加古川総合文化センター）

10月25日(第4日曜日)

11月29日(第5日曜日)

(12月 休み)

1月 24 日 (第4日曜日)

2月28日(第4日曜日)

3月21日(第3日曜日)

※はりまエスペラント会のザメンホフ祭は検討中です。

“Verda Placo” (みどりのひろば) n-ro 7

2009年10月24日

発行：はりまエスペラント会 代表 峰 芳隆

高砂市北浜北脇 29-16

編集：南場 敏郎 加古川市平岡町城の宮 13A-102

nanba.tosiro@w8.dion.ne.jp

エスペラント



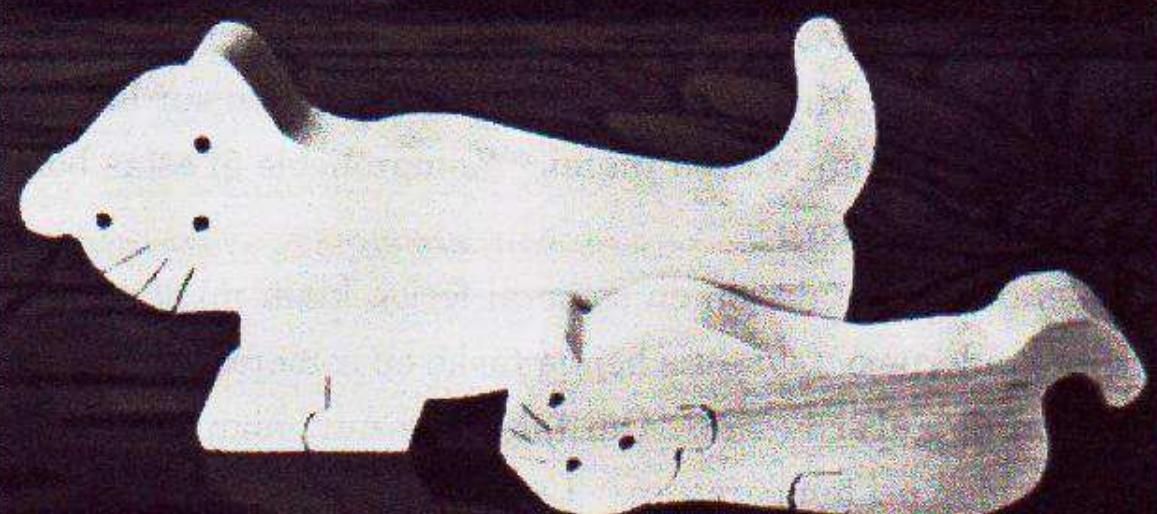
Verda Placo vintro 2010

みどりのひろば 2010年冬

N-ro 8

Harima Esperanto-Societo (はりまエスペラント会)

Feliĉan Tigran Jaron al vil



ligej tigro kaj tigrido fantaĵ de Tada Rjuji en Esp-Labo

国際交流スプリングフェスティバル

2月28日(日),姫路国際交流センターで,第6回国際交流スプリングフェスティバルが開催されます。はりまエスペラント会も,これに参加します。2007年の第3回からの連続参加で,4回目になります。

今年も,昨年と同じ,同センターの第3会議室を終日使用して,「宮沢賢治に学ぶエスペラント」と題してエスペラントを紹介する講座を開きます。内容は,宮沢賢治とエスペラントについての話を導入にして,エスペラントの概要を紹介するつもりです。

この紹介講座は,11時からと14時からの2回,それぞれ,1時間。もちろん,無料で,誰でも受講できます。お知り合いの方にもお勧めください。その前後には,DVDの映画を上映します。昨年は,失敗しましたが,今年は準備をしっかりして,ご期待に添いたい思います。もちろん,いつもの展示も行います。アイデアをお寄せください。
(峰 芳隆)

Mem faru! (2) Elektro

TADA Rjuji

Sur la ĉielo staras la bela suno. La suna lumo estas senlima kaj senpaga. La suno faras monon. Mi instalis fotovoltaikan centralon sur la tegmento de mia laborejo Lab-Espo en la urbo Inami. Kompreneble ĝi estas bona ankaŭ por la medio de la terglobo.

Mi faris etan sunan fajrejon en someraj ferioj, kiam mi estis en la kvara jaro de elementa lernejo. Ĝi estis hejma tasko en someraj ferioj. Hura! Ĝi gajnis premion de guberniestro. Oni taksis ne nur mian konstruadon, sed ankaŭ mian studon pri temperaturo. La studio estis temperatura rialto inter aero kaj akvo en ĉiu horo.

Mia fotovoltaika centralo komencis funkciu en aprilo 2006. Mia pagis cirkaŭ 3.5 milionojn da enoj por ĝi. Ĝi havas 28 fotovoltaikajn sun-panelojn kaj produktas averaĝe 460KW da elektro ĉiumonate. Ĝi laboradas de mateno ĝis vespero.

Mia vendas la elektron al la elektra kompanio. Ju pli da elektropovo, des

pli la prezo altiĝas. La vonda prezo al la kompanio estas pli alta ol la aĉeta prezo de ĝi. La vonda prezo fariĝis duoble pli alta ekde la lasta novembro.
foto-volta-ik-a centralo: 太陽光発電所, sun-panelo: 太陽光パネル



Mia edzo kaj fumado per pipo

BABA Tokie

Mia edzo estas troa fumanto. Li fumis du aŭ tri skatolojn da cigaredoj ĉiutage ĝis ĉirkaŭ 45-jara. Kiam li estis 45-jara, oni trovis, ke li estas diabeta. Tiam kuracisto diris al li: "Ne fumu nek trinku sakeon."

Estis facile ne trinki, ĉar li ne ŝatas sakeon. Ĉiam li diris: "mi trinkas sakeon por teni amikecon." Sed estis malfacile ne fumi. Li abstinis de tabako. Li eltenis la abstinadon dum du aŭ tri jaroj.

Unu fojon li diris: "La abstinado stresas min. Tio estas malsaniga." Li denove ekfumis. Komence, li fumis sola. Mi ne sciis, de kiam li ekfumis kiel antaŭe. Foje, kuracisto de la municipa hospitalo de Ono telefonis al mi: "Tuj venu! Via edzo falis pro korinfarkto en golfejo. Oni transportis lin al la municipa hospitalo de Miki per ambulaco." Rapide mi iris al la hospitalo per taksio.

La municipa hospitalo de Miki estas konata pri ĉirkulaj organoj. Kuracisto kateteris arterion kaj detruis infarkton kaj enmetis stenton tie. Tio estis tre malfacila operacio. Mi ne sentis min vivanta dum la operacio. La operacio sukcesis. Li eltenis.

Li ne fumis de post tiam en ĉiaj cirkonstancoj. Li ne fumis dum longa tempo. Foje li trovis sian malnovan pipujon en tirkesto de librobretaro. Pipo kaj cigaredo estis en la pipupo. Kiam li trovis ĝin, li rememoris la fumadon karmemora. Li fumis. Pipa fumo estis bonodora por li. Tiam li diris: "Pipa fumo havas malmultan nikotinon." (Ĉu tio estas vera?)

Li denove komencis fumi. Komence li fumis unu skatolon dum la semajno. Sed li fumis pli kaj pli multe. Nun li fumas unu skatolon dum 3 tagoj. Mi kredas, ke tio estas malsaniga. Sed li ne kredas. Nun tio estas ja semo de maltrankvilo por mi.

municipa: 公立, kor-infarkto: 心筋梗塞 (infarkto: 梗塞), diabeto: 糖尿病
ĉirkulaj organoj: 循環器, katetero: カテーテル, arterio: 動脈, stento: ステント

Mia tankao por Uta-Festo

峰 芳隆

En la verda maj'
Infanoj gaje ludas
Ĉe la riverpord',
Ci tiun pacon havu,
Ho, ni homoj en la mond'!

これは、2007年の世界エスペラント大会の閉幕後の8月14日に、京都の綾部で開かれた La Esperanta Uta-Festo de Oomoto の「お題」“Paco”に、応募して入選した私の作品で、その時に出された冊子 *Dedičita Tankaaro* に掲載されたものです。

Uta-Festo では、古式に則って朗詠されたそうで、そのリズムは、日本語の朗詠をエスペラントに当てはめ、全体 31 音節を通して「強 弱 強 弱 強」とする必要があるそうです。そのため、この takao もそのリズムで書かれています。

ところで、上記の maj', riverpord', mond' は、それぞれ、majo, riverpordo, mondo の名詞語尾 o を省略したものです。これは、詩に限って許されている約束事ですが、その場合にも、元のアクセントの位置は動かず、maj', riverpord', mond' (太字がアクセントの位置) と発音します。

エスペラントにおいて省略可能なのは、この名詞語尾 o と冠詞 la の a (la → l')

だけです。このことは、ザメンホフのたった 16 条の文法の 16 番目に書かれているほどですが、それは、詩を作ること、その中でもリズムが大切であることをザメンホフが重視したからでしょう。

しかし、ところが、私が作って応募した tankao は、次のものでした。

En verda majo
infanoj gaje ludas
ĉe riverbordo.
Ĉi tiun pacon havu,
ho, ĉiuj en la mondo!

ご覧のように、各行毎に「弱 強 弱 強 弱」(5 音節) と「弱 強 弱 強 弱 強 弱」(7 音節) となっています。これは、私が tankao を作る時に、いつも心がけているリズムで、この tankao もそのリズムで作りました。

もっとも、大本のエスペラント普及会の機関誌 “Nova Vojo” 2007 年 5 月号には、審査員の一人の前田茂樹さんが、入選作品は Uta·Festo で朗詠するので、全 31 音節を通して、「強 弱 強 弱 強」であることが必要であると書いているのは、読んでいました (Kiel priversi tankaon en Esperanto? Por dezirantoj fari tankaojn dediĉe al la Esperanta Utafesto de Oomoto?)。

しかし、一方では、当時、“La Movado” 誌上の「モバード歌壇」欄で、私が tankao の指導を受けていた藤本達生さんが、同じ “Nova Vojo” の 4 月号に、「詩の場合、リズム (ritmo) とか韻 (rimo) とかいうこともあるが、少なくとも私は、それらも全部、無視する。要するに、全部で 31 音節あればそれでいいとする立場なのである」(「エスペラントで短歌を作るには」と、言い切っているのも読んでいました (藤本さんは同じ内容をエスペラント文 “Nur praktike pri tankao” でも書き、これは昨年 6 月に出版された藤本さんの文集 “Kromeseoj” の中に収録されています))。

迷いましたが、「師匠」の藤本達生さんに従って、これまで通りの自己流に作って応募しました。しかし、これは朗詠には向かないものだからどうかな、と思っていました。

しかし、Uta·Festo に出席した人から、「峰さんの短歌が入選して朗詠されましたよ」と聞きました。はたして、どのように朗詠されたのか聞き漏らしたのは、ちょっと惜しい気がしました。

やはり、そのままでは朗詠できないということでしょう、結局、冒頭のように添削されたことを知りました。しかし、私は、いまでも、「朗詠」は別にすれば、5行詩の tankao としては、元の形がいいのではないかと思っています。

エスペラント雑感

吉田信子

2009年夏、思いがけず初めて世界大会に参加させていただいた。夫がエス語を始めたからだ。もっともっと学習しないと無理を思っていたが、それなりに交流もあり、充分に楽しいものであった。ザレスキー・ザメンホフさんに会ったこと也有って、帰国後すぐに、ローマン・ドブジンスキ氏の『ザメンホフ通り』を読んだ。そして知った事だが、ザメンホフ博士は「宗教間の疎通」のために、エス語を考案したという。人類の平和を願っているはずの宗教が今日も多くの悲劇を生み出している事実！

大本人の私は、宗教のおかげでエス語に出会い、大本を通して海外に出かけている。今年6月にはモンゴルでアジア大会がある。ロクに喋れなくても充分に楽しめる大会への参加を皆さんと一緒に！

“Proverbaro”

(『エスペラント日本語辞典』より)

多田竜二さんが、第6号で紹介した“Kial ni mangas?”に続いて、新しい冊子“Proverbaro (『エスペラント日本語辞典』より)”を作りました。

『エスペラント日本語辞典』に、文例として載っている proverbo (諺=ことわざ) を集めた「ことわざ集」(proverb·aro) で、大変な労作です。A5判、18ページに、数えてみると、およそ250点あります。

一例は、この辞典 p.6 の mal·abund·ec·o に載っている次のものです。

Malabundeco ruinigas homan dignon.

欠乏は人間の尊厳を零落させる=貧すれば鈍する

このように、日本語にも同じようなものがあるので、比較して読むと、なかなか興味深いです。しかし、中には、次のように、日本語とは「たとえ」が違うものも少なくありません。

Rano eĉ en palaco sopiras pri marĉo.

カエルは宮殿にいても沼を恋しがる=お里が知れる

Gutas mielo el la ĉielo.

天から蜂蜜が滴り落ちる=棚からぼた餅

これなど、読んでみて、なるほどそうなのかと、翻訳した人（辞書の執筆者）に感心しています。

丹念に集めて、この冊子を作ってくれた多田さんにも感謝！（峰 芳隆）

学習例会の記録

Kiam, kie, kiuj kune lernis?

<姫路：国際交流センター>

10月29日：木根、久保田、小西成、中村、馬場、吉田、峰

11月26日：大前、小西成、中村、馬場、吉田、峰

姫路では、引き続き、初心者向けテキスト“Hanako lernas Esperanton”を読んでいます。この本には、易しい文が繰り返し書かれています。この本に加えて、すでに読み終わった『エクスプレス・エスペラント語』の「解説」ページで文法の復習をしながらの学習です。

<加古川：加古川総合文化センター>

10月25日：坂本、多田、塚本、南場、峰

11月29日：坂本、多田、塚本（峰は風邪のため欠席）

加古川では、“Kial ni mangas?”（第7号参照）を読んでいます。また、La Movadoの「実用作文教室」も教材にしています。

12月13日、神戸で開かれた関西エスペラント連盟の「エスペラントまつり」には塚本猛さん、藤井富朗さんと峰が参加しました（藤井さんは神戸エスペラント会の会員でもあり今回の催しの準備委員として活躍。峰はKLEG書店担当で本売り）。全参加者は96人で、座るところがないほど盛会でした。詳細な報告はLa Movado2月号参照）。

なお、12月に計画していた、会としてのザメンホフ祭は、残念ですが中止しました。（峰 芳隆）

今後の例会予定（2010年1月～3月）

★姫路（午後2時～4時、姫路国際交流センター）

1月 28 日（第4木曜日）

2月 25 日（第4木曜日）

3月 18 日（第3木曜日）

★加古川（午後2時～4時、加古川総合文化センター）

1月 24 日（第4日曜日）

2月 21 日（第3日曜日） ←変更

3月 21 日（第3日曜日）

2月 28 日（日），姫路国際交流センターで，開催される第6回国際交流スプリングフェスティバルに参加するため，2月の加古川の例会は第3日曜日の21日に変更します。また，関西エスペラント連盟の事務局を担当している峰は，その決算業務のため，3月の下旬は忙しくなります。そのため，姫路も加古川も，3月は，峰の都合で，上記のように1週間前倒しにさせていただきます。

編集後記

昨年11月に上京した折、高校時代の友と東京国立近代美術館を訪ねてみました。エロシェンコの肖像画を見るためです。日曜日でしたが見学者は少なく、落ち着いてゆっくり鑑賞することができ、鼻筋から前髪にピントを合わせた描き方が印象的でした。

今号は多田さんと馬場さんの専門用語（合成語）を駆使した意欲的なエス文に感動し、辞書を引きながら読み、勉強になりました。

“Verda Placo”も次号（9号）で3年目にはいります。更なる寄稿を期待しております。次号の原稿は4月10日頃までにお寄せください。

★★

“Verda Placo”（みどりのひろば） n-ro 8 2010年1月24日

発行：はりまエスペラント会 代表 峰 芳隆 高砂市北浜北脇 29-16

編集：南場 敏郎 加古川市平岡町城の宮 13A-102 nanba.tosiro@w8.dion.ne.jp

エスペラント



Verda Placo printempo 2010

みどりのひろば

2010年 春

N-ro 9

Harima Esperanto-Societo (はりまエスペラント会)



lignogravurajo de s·ino Nakamura Masako

Mem faru! (3) Fumajado

TADA Rjuji

Fumajado estas maniero por konservi kaj bongustigi nutraĵojn. Ĝi estas la plaj malnova-krom sekigado. Mi faris fumajadon skatolon. Mi uzis ĝin kelkaj foroj. Ĝia strukuturo estas tre simpla. Ĝi havas elektran varmigilon, du uzitajn ladskatolojn kaj pateton (ricevuo de lignpeco). Mi fumajadis diversajn mangajojn. Ekazemple fromaĝo, borita ovo, salmo, tofuo peklita porkaĝo, kolbaso, ŝinko kaj kuirita "malfermita" trakuruso ktp.

Procedo

- ① Preparu frešajn materialojn.
- ② Trempadu ĝin en salakvo aŭ spica likvaĝo.
(Ekazemple peklita pokajo dum unu semajno)
- ③ Lavu malmulte ĝin, kaj sekigu ĝian surfacon.
- ④ Pendigu en fumajada skatolo.
- ⑤ Fumu lignpecon per elektra varmigilo.



La lignpecoj estas diversaj por fumo. Ĝi ricevas karakterizan guston kaj agrablan koloron. Mi ofte uzas arbojn de ĉerizarbo, fago kaj pomarbo. Prepara de fumaja kuirado bezonas longan tempon kaj estas malfacila. Nun mi faros duan fumajadan skatolon pli granda ol unuan.

“Saluton! Mi estas Mano el Himeji.”

まあの 中村雅子

3月11日（木）、お昼の12時に、神戸・長田区にあるラジオ局FMわいわい（77.8MHz）から、私のエスペラント語のあいさつが流れました。この日、12時～1時の『まちはイキイキきらめきタイム（木曜日は甘辛！）』という番組に、ゲストとして出演したのです。この発端は、この番組のDJをされている朴明子（パクミョンジャ）さんの一人芝居が姫路であった時、一緒に見に行った友人の大野恭子さんが朴さんの番組に遊びに行く約束をして、私も誘ってくれたからです。大野さんは、星野文昭さん（1971年の沖縄返還闘争デモの最中に機動隊員を殺害したとして、無実を訴えているにもかかわらず無期懲役で服役中）の救援活動をしていて、再審請求の署名協力をラジオで呼びかけたいとのこと。私は一緒に行くなら、3月21日（日）にJR元町駅前である神戸ラブ&ピースの『ピースライブ』の宣伝をしたいと思いました。神戸ラブ&ピースは、2001年の9.11事件をきっかけに「非暴力で平和を！」というメッセージを込めてピースライブをしていて、私も2年半ほど前からまあのとして出演しています。

FMわいわいは、震災の時ボランティア活動の拠点となった鷹取教会の敷地内にあって、神戸在住のたくさんの外国人に向けた番組を作っています。日本語はもちろん、韓国・中国・ベトナム・スペイン・ポルトガル・タガログ・タイ・アイヌ語と多言語が飛びかっているのなら、エスペラント語も受け入れてもらえるだろうと、冒頭の自己紹介をエスペラント語で言ってみました。朴さんがすかさず「今のあいさつは何語ですか？」と問い合わせて下さったので、そこで少しだけ世界共通語のエスペラントを紹介することができました。

ピースライブの予告のほか、イラクの子どもたちへの医療支援のことや、イラク戦争の検証をするための調査委員会の設立を求めるネットワークのことも、朴さんとお話ししました。その後で、なんと生放送で一曲（途中までですが）歌わせてもらいました。まあのの歌声が、どんな風にラジオから聞こえたのかわかりませんが、不特定多数の人が何気なくでも聴いていることを考えると、ラジオは情報やメッセージを発信するのに、とてもよい媒体だと思いました。

今回出演できて、本当にありがとうございました。星野文昭さんの再審請求の話といい、エスペラント語のあいさつとピースライブのお知らせといい、まさに「甘辛！」にふさわしい番組になったかな？

朴さんも、**まあの**の歌の歌詞「♪腹が立つことがありました♪」に反応して、朝鮮学校を高校無償化の対象から外すことに怒りの声を上げていたし。FM わいわいの番組表を見ると、『耳で読み解く日本国憲法』というのもあって、「おおっ！ 素晴らしい!!」と思いました。こういうラジオ局は貴重ですね。生放送はインターネットの「サイマルラジオ」でも聴けるそうです。

(注) 「FM わいわい」は地域ラジオなので、姫路では直接聞くことができない。インターネットで聞く方法は、「サイマルラジオ」のホームページ <http://www.simulradio.jp/> で「エフエムわいわい」の右の「放送を聞く」をクリック。ただし、接続するのは生放送の時間帯だけ。3月 11 日の中村さん出演の放送内容は、「FM わいわい」のホームページ <http://www.tcc117.org/fmyy/index.php?e=667> で読むことができる。(峰)

Edzo kaj golfo

BABA Tokie

Mia edzo estas sportisto. Kiam li estis knabo, lia revo estis fariĝi profesia basbalisto.

Kiam li estis lernanto de dua mezlernejo, lia revo estis partopreni en la konkurso de Koošien. Tiu revo ne plenumiĝis. Kiam li frigis dungito de kompanio, li komencis ludi golfon. Lia temperamento estas entuziasmi en ĉioaj. Ekzemple, li iris ekzerco de golfo 4 aŭ 5 horojn en libera tago. Li iris al golfo 4 aŭ 5 fojojn en monato. Lia handikapo estis 12. Lia revo esti fariĝi “single” de handikapo.

Kiam li havis 57 aŭ 58 jarojn, li trovis eksterordinaran grandan doloron ĉe sia dekstra ŝultro. Tiam ni kaj niaj nepoj ludis sur riverbordo kaj ni jetis ŝtonojn en la riveron. Li estis malfacila por jeti ŝtonojn. De tiam lia dekstra brako kaj ŝultro ne fartis bone, kaj la malsano pli kaj pli kreskis. Li suferis de hernio de la kola vertebro. Li enhostaliĝis en medicina centro de Seišin. Li ricevis malfacilan operacion, kiu daŭris 5 horojn.

Mi pensas, ke li suferis de hernio, ĉar li svingis klabon tro multe. Tro rapida ekzercado ne kondukas al lia celo. Siatempe, mi pensis, ke li ne plu povos ludi

golfon kaj estas kompatinda. Sed ne necesis tia maltrnkvilo.

Post unu jaro, li denove komencis ludi golfon. Sed li ne plu ludas golfon ekstreme. Li iris ekzercado de golfon 2 fojojn monate. Li iris al golfejo 1 aŭ 2 fojojn en monato. Lia handikapo estas 12 kiel antaŭe, kaj ŝajne la rezulto estas ne bona. Kiam li reveis hejmen de golfejo, li diras : "Estis bona vetero." Tamen li ĝuas ludi golfon kaj renkonti malnovajn karamikojn.

第6回国際交流スプリングフェスティバル

宮沢賢治に学ぶエスペラント エスペラント語紹介講座

イーハトーヴィの仲人・喜代重修は、世界の人々に分かってもらうために、エスペラント語で作品を書くことを試みました。その作品と原題を適切にエスペラントの翻訳を施します。エスペラントは、言葉共通のない單純な世界を構築して測られた世界共通語です。インターネット時代、暫時の時代を超えて、知識を継承して、市民の意識改革に寄り切られています。

日時 2月28日(日)
1回目 午前10時～12時
2回目 午後2時～3時
会場 各回10名
会場 姫路市国際交流センター 第3会議室



内容 1) 宮沢賢治エスペラント語で読みあわせ「銀河物語」の登場
2) 宮沢賢治とエスペラント
3) エスペラント語はどんな言語か
4) 学習の方法

参加費：無料
対象：どなたでも参加できます。
講義の前後には、エスペラントの翻訳曲を上映します。

問い合わせ・申し込み先 神戸市国際交流センター
電話番号 078-254-2302 (平)
メール #324-0010 himeji@kansai-edu.ac.jp

お問い合わせ、イーハトーヴィと宮沢の翻訳文化センターで本著者を購入して下さい。

今年も2月28日(日)、姫路国際交流センターで開催された「第6回国際交流スプリングフェスティバル」に参加しました。2007年から連続参加で、4回目です。今年も、展示だけでなく、1室を使ってのワークショップとして、紹介講座を開催することにしました。昨年と同じ部屋ですが、昨年は参加者なしだったので、今年は「エスペラント語紹介講座 — 宮沢賢治に学ぶエスペラント」としました。新聞社に送った案内は、神戸新聞(2月18日)と朝日新聞(2月27日)が載せてくれました。もちろん、フェスティバルの主催者が広く配布する広報冊

子にも、案内チラシの綴じ込みを依頼しました。

紹介講座は、午前と午後の2回、行ないました。午前中は、新しい人が塚本猛さん夫人の塚本芳子さんだけで、その他は会員と元会員（川平憲秋さんと内海高子さん）でしたので、宮沢賢治とエスペラントの話を中心に、その後はDVDの "Pasporto al la tuta mondo" の Leciono Unu を上映しました。これは、アメリカで制作されたエスペラント会話学習用の寸劇のビデオで、導入の説明には日本語の字幕、寸劇の部分にはエスペラントの字幕が付いたものです（この字幕は他の言語も選択可能）。（写真は、午前中の最後に撮影したもの）。

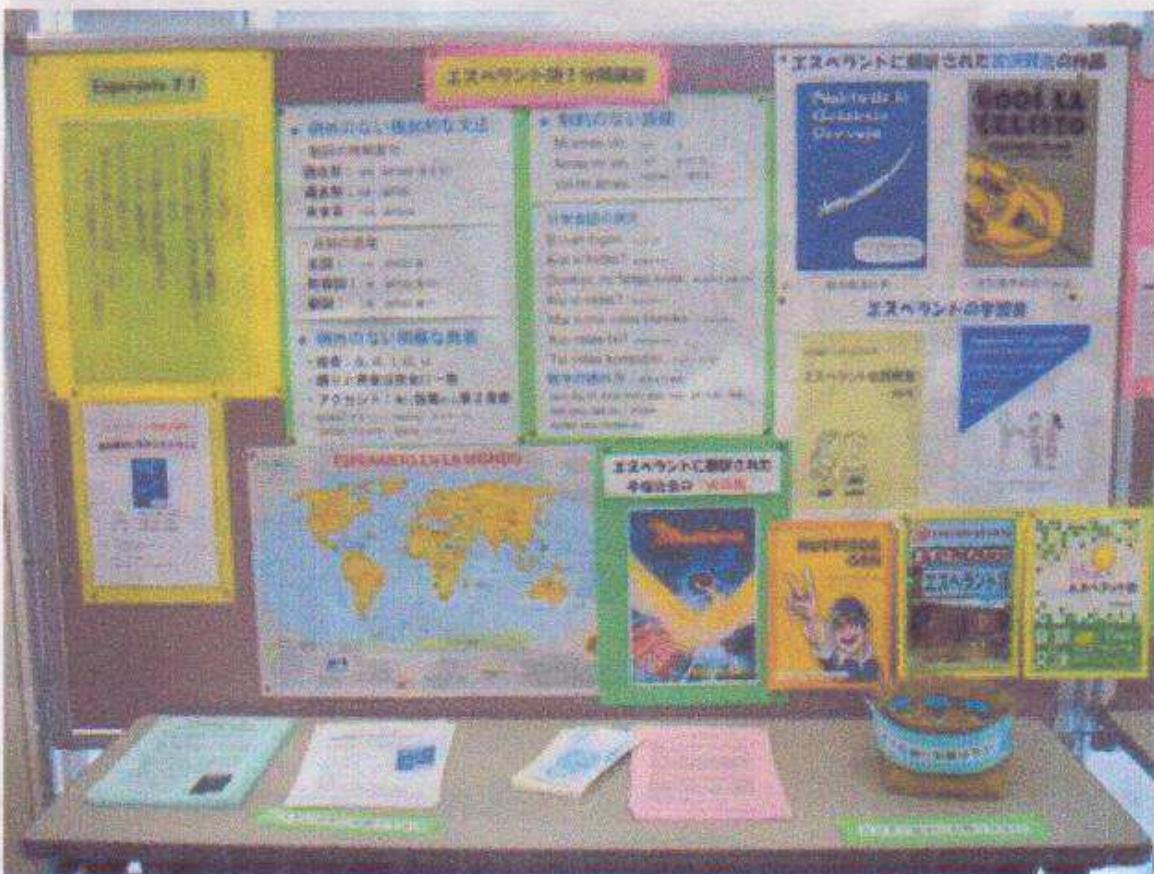
午後は、新しい受講者が4人。市川町の山岸裕子さんと市内の岡本泰子さん、さらに Verda Placo N-ro 7 で紹介した Vitroperlo の maro さんこと水上満里子さんと luno さんこと小杉綾さん。この内、山岸さんは3月の例会に参加して、入会されました。岡本さんは教員で、平日は出席できないとので、今後、土曜か日曜に講習会を開催する際には案内したいと思います。なお、maro さんは、その参加記を Vitroperlo のホームページ「maroluno の日記」に書いています。
(<http://d.hatena.ne.jp/maroluno/20100228>)

午後は、予定通りに、宮沢賢治とエスペラントの話から入って、日本エスペラント学会の冊子「国際語エスペラントへの招待」を使って、文字、読み方、文法の概要、簡単な挨拶を説明したあと、一緒に読んで体験してもらいました。その後、同じ DVD を上映して、直前に学習したことが実際に会話で使われているところを見てもらいました。

「展示」にも、宮沢賢治関係のものを追加しました。さらに会の活動紹介として、Verda Placo N-ro 5～N-ro 8 の表紙を A4 判のカラーに拡大プリントしたものを展示しました。また、パネルの前の机の上には、馬場さんが発案して姫路の有志が加わって作った折り紙の楊枝入れ（Dankon のメモ入り）を「ご自由に」と置きましたが、好評で最後には全部なくなっていました。

会員の参加者は、前日 27 日の準備に、稻田正昭、坂本敏明のお二人と峰。当日は、稻田、小西美佐子、小西茂子、坂本、多田竜二、竹田華恵、塚本猛、塚本芳子、中村雅子、曲田忠房、松田邦子の皆さんと峰。また、12月に開催された国際交流センターの準備会には稻田さんに出席してもらいました。なお、写真は、終わってから後片付けの直前に写しましたので全員が写っていません。去年もそうでしたが、今年もうっかりしていました。

（峰芳隆）



はりまエスペラント会





宮沢賢治の「イギリス海岸の歌」

1. Tertiary the younger tertiary the younger
Tertiary the younger mud stone
あをじろ日破れ あをじろ日破れ
あをじろ日破れに おれのかげ
2. Tertiary the younger tertiary the younger
Tertiary the younger mud stone
なみはあをざめ 支流はそそぎ
たしかにここは 修羅のなぎさ

これは宮沢賢治が花巻市の郊外を流れる北上川の川岸を歌ったものです。賢治自身が作曲し、メロディも残っているそうです。

Tertiary（ターシャリー）と言う響きのいい言葉は第三紀という地質時代のある時期（6500万年前から200万年前まで）をあらわします。さらに、Tertiaryという時代は古第三紀（6500万年前から2000万年前）と新第三紀（2000万年前から200万年前まで）に分けられます。

新第三紀という地質時代は火山活動が活発で、東北地方の日本海岸側に多くの火山噴出物を堆積させました。北上川の西側に広く分布する凝灰岩（火山噴出物からなる岩石）はこの時代のものです。賢治はこの泥まじりの凝灰岩を tertiary the younger mud stone（新第三紀の泥岩）と歌っているのです。

なお、賢治は北上川の川岸を童話「イギリス海岸」のなかで、次のように書いています。

「イギリス海岸には、青白い凝灰質の泥岩が、川に沿ってずゐぶん広く露出し、その南のはしに立ちますと、北のはづれに居る人は、小指の先よりも小さく見えました。

殊にその泥岩層は、川の水が増すたび、綺麗に洗はれるものですから、なんとも云えず青白くさっぱりしてゐました。

所々には、水増しの時できた小さな壺穴の痕や、またそれがいくつも続いた浅

い溝、それから亜炭のかけらだの、枯れた蘆きれだのが、一列にならんでゐて、前の水増しの時にどこまで水が上がったのかもわかるのでした。

「日が強く照るときは岩は乾いてまっ白に見え、たて横に走ったひび割れもあり、大きな帽子を冠ってその上をうつむいて歩くなら、影法師は黒く落ちましたし、全くもうイギリスあたりの白亜の海岸を歩いてゐるような気がするのでした。」

イギリスの白亜の海岸は、あのドーバー海峡に面した海岸で、白亜（チョーク）という白いやわらかい岩石からできています。白亜（チョーク）という岩石は有孔虫などの遺骸が泥とともに固まった岩石です。賢治は北上川川岸の白い泥岩層をドーバーの白い壁に見立てたのです。賢治は北上川河岸一帯の地層や化石を詳しく調べ、泥岩から獸の足跡や骨を見つけています。そこで、賢治は“イギリス海岸”が獸たちの戦いの場だったとして“修羅のなぎさ”と歌ったのでしょうか。

このように宮沢賢治は立派な地学者でもあったようで、他の作品にも地学の専門用語が多く出てきます。

今年こそは、宮沢賢治の地質図を持って、岩手の山旅をしようと思っています。

南場 敏郎

地 質 時 代 georogia epoko

第四紀 kvaternaro

新生代 kenezoiko 新第三紀 neogeno

古第三紀 paleogeno

6500 万年前

白亜紀 kretaceo

中生代 mezozoiko ジュラ紀 juraso

三疊紀 triaso

2 億 5000 万年前

古生代 paleozoiko

5 億 4000 万年前

(注) 最近は、tertiary(terciaro)第三紀という述語は使われなくなって
しまいました。

学習例会の記録

Kiam, kie, kiuj kune lernis?

＜姫路：国際交流センター＞

1月 28日：大前、小西成、中村、峰

2月 25日：大前、竹田、馬場、峰

3月 25日：大前、木根、竹田、中村、山岸、峰

この日から、新しく山岸裕子さんが参加されました。この日は、発音、文法入門編の説明をしましたので、他の人には復習になりました。4月からは、始まる前に45分間の入門講習をします。

＜加古川：加古川総合文化センター＞

1月 24日：坂本、多田、塚本、南場、馬場、峰

2月 21日：久保田、坂本、多田、塚本、南場、曲田、峰

これまで姫路に出席されていた久保田俱視さん（加古川市民！）が、初めて加古川に来られました。今後も都合がつく限り加古川にも出席されるそうです。

3月 21日：坂本、多田、塚本、峰

“Kial ni mangas?”を読み終わり、“Vojaĝo kun Katrina”を読み始めました。「作文教室」の復習なども行なっています。 (峰記)

Gratulon al f-ino Konisi Sigeko!

姫路の例会に1月まで参加していた小西成子（しげこ：小西美佐子さんの娘）さんは、定時制高校を卒業し、4月からは大本の梅松塾に入塾するため、1月の例会の出席が最後になりました。成子さんは、これまで、学校へ行く前の時間に、姫路の例会には、ほぼ毎回出席して、アイドル的な存在でした。

梅松塾は京都府亀岡市にある、大本の子弟の教育機関で、学科の中にはエスペラントもあります。

成子さんには、はりまエスペラント会からのお祝いとして、CD付きの学習書『まずはこれだけ エスペラント語』を贈りました。 (峰記)

今後の例会予定（2010年5月～2010年11月）

★姫路（午後2時～4時、姫路国際交流センター）

5月 13 日（第2木曜日）

6月 17 日（第3木曜日）（7月は夏休み）

8月以降は、8月 19 日、9月 16 日、10月 21 日、11月 18 日。
いずれも第3木曜日で、会場は予約済みです。

姫路では、引き続き、初心者向けテキスト“Hanako lernas Esperanton”を読んでいます。この本に加えて、すでに読み終わった『エクスプレス・エスペラント語』の「解説」ページで文法の復習もしています。

なお、当分の間、午後 1 時 15 分から、新しく加わった山岸さんのために、入門講習を行ないます。

★加古川（午後2時～4時、加古川総合文化センター）

5月 16 日（第3日曜日）

6月 20 日（第3日曜日）（7月は夏休み）

8月以降は、次の予定ですが、会場の予約が3か月前からのため、未確定です。8月 22 日、9月 26 日、10月 24 日、11月 28 日（いずれも第4日曜）

加古川では、“Vojago kun Katrina”を読み始めました。

編集後記

この時季の野山を歩いていると、自然の様子がめまぐるしく変化しているのが良く分かります。一面褐色の枯葉を押しのけて緑の若葉や白や青や黄色の花があふれ始めています。“みどりのひろば” も多くの原稿でもっともっとにぎわしてください。次号の原稿は8月中旬までにお願いします。

★★

“Verda Placo”（みどりのひろば） n-ro 9 2010年4月24日

発行：はりまエスペラント会 代表 峰 芳隆 高砂市北浜北脇 29-16

編集：南場 敏郎 加古川市平岡町城の宮 13A-102 nanba.tosiro@w8.dion.ne.jp

エスペラント



Verda Placo somero 2010

みどりのひろば

2010年 夏

N-ro 10

Harima Esperanto-Societo (はりまエスペラント会)



シライツソウ
(小野アルプス 紅山にて)

「エスペラント日本語辞典」の怪

「エスペラント日本語辞典」の疑問点を列挙してみました。

坂本敏明

頁	段落	行	本 文	訂	正 (案)
67	右	38	装置、設備、装置	装置、設備	
180	左	8	Kiom [kiel] longe	Kiom [Kiel] longe	
273	右	12	神髓 :	神髓 (真髓) :	
310	左	44	子孫を生む	子孫を生 (産) む	
318	右	28	Li ~iniĝis al	Ŝi ~iniĝis al	
334	右	9	flikadi	flikado	
367	右	42	❶ : Li	❶荒れ狂う : Li	
411	左	7	が穀物を	ひょうが穀物を	
474	右	42	支援をお願い	彼女から支援をお願い	
479	右	1	inversigo	+ invesigo	
479	右	3	inversigebla	+ inversigebla	
479	右	7	inversigilo	+ inversigilo	
479	右	11	neinversigebla	+ neinversigebla	
479	右	44	丁重に求める	丁重に求める	
489	右	15	unu~ gentoj	unu~ gento~	
492	左	30	da~oj	da ~oj	
498	左	46	Ŝi estas la plej	Ŝi estas la plej	
508	左	13	F1~igita	~igita	
514	左	10	ある人は	ある人々は	
514	左	17	反論する	反論した	
555	右	30	vian orelon	viajn orelojn	
563	左	26	brullignon	brullignojn	
571	左	37	~igita turismaj lokoj	~igitaj turismaj lokoj	
573	右	44	~a okulo	~aj okuloj	
580	左	22	その町には	この町には	
583	左	46	御しやすい	制御しやすい	
599	左	6	sidis	sidas	
669	左	16	La ~oj estas en ordo.	La ~oj estas en ordoj.	
670	左	34	エレベータに乗る	エレベーターに乗る	
678	右	3	binzino	benzino	

頁	段落	行	本 文	訂	正 (案)
682	左	13	monnujon	monujon	
685	右	16	demando	demendo	
688	右	39	新月は novlomo	新月は novluno	
711	左	34	3本マスト	三本マスト	
733	左	19	~okcent·okdek	~okcent·okdek	
742	左	33	無修整の	無修正の	
744	左	46	に訪れる	に訪れた	
750	右	17	にのっとて	にのっとって	
755	右	38	kurtenon	kurtenojn	
771	左	25	Ne por	N~ por	
771	左	33	Ĉiuj ne ĉeestas	Ĉiuj ~	
772	右	19	La ~igis ke	La igis, ke	
781	左	45	·nj· 身内の女性)	·nj· (身内の女性)	
786	左	44	† Norddio	Nordio	
790	左	29	per la ~a okulo	per la ~aj okuloj	
791	左	48	konstatata	konstata	
796	左	11	~ la sorton	~i la sorton	
800	右	28	表現するため供物	表現するための供物	
806	左	15	~ postenon	~i postenon	
818	右	13		orizio [魚] メダカ (追加を希望)	
825	右	40	de~i sovaĝanason	de~i sovaĝanason	
826	右	43	月決め料金	月極め料金	
836	右	9	②寄成虫的存在	②寄生虫的存在	
845	左	38	(あひるのように)	(アヒルのように)	
861	左	43	狩り立てて	駆り立てて	
877	右	26	①【地理】【地理】	①【地理】	
887	左	13	雨混じりの雪	雪混じりの雨	
980	左	47	ĉi al ŝi	ĉi al ŝi.	
983	右	13	典礼主義者	典礼主義	
1187	左	38	en supo	en supon	
1202	右	13	en plenan ~n	en plenan ~on	
1235	左	32	La vortoj estas la ~o	La vortoj estas la ~oj	

楽しかった 関西エスペラント大会

久保田俱視

6月5・6日に奈良市で開催された、第58回関西エスペラント大会に参加させて貰った。奈良方面では、明日香村にはこれまで何度か訪れる機会があったが、奈良市街は50年以上前の卒業旅行以来のことと、また、開催中の「平城遷都1300年記念博覧会」やら、他にも案内して貰えるとのプログラムに惹かれた部分もあり観光も併せての参加であった。それら「大会前・後遠足」のことはさておき、大会講演3演題は皆それぞれ大変興味深く楽しませて頂いたのでそのことを報告します。

北川昭二氏の講演「今エスペラントを学ぶことの意義」では、氏のエスペラントへの関わりが、「ザメンホフの考えに共感出来たことにある」として、エスペラントの持つ平和・友好・公正・弱者へのやさしさなどの内的思想の尊さを指摘された。そして民族を超えた心の交流に、エスペラントが、これからも輝き続ける、と結ばれた。

社内会議に英語を使う、ともきかれる日本の実業社会、商売の情報手段に英語は必須かも知れないし、一方、より廣い人類文化の向上に、平和社会の実現にエスペラントがまた必須であるとの思いを強くした。

歴史学者の千田稔氏の講演「平城京と遣唐使」は、奈良にとって時宜を得たテーマで、氏の語り口の面白さもあって、会場に笑いが絶えず、楽しく歴史の勉強をさせて貰った。氏が言われるように「現代の宇宙旅行よりもずっと危険と困難の多い船旅・遣唐使」に毎回400人以上の団体で20回近くもよく出かけたものだ、とその時代の活力を思わせられた。

奈良の姉妹都市西安から招かれた王天義 (WANG Tianyi) 氏は「唐の長安、現在の西安」をエスペラントで講演された。王氏は現在西安エスペラント協会会長。長安は平城京のモデルになった都市、その古都の歴史、日本との交流をエスペラントで語った。氏のエスペラント語はこれまで聞く機会のあったのに比べて、大変特徴あり感心させられた。それは、発音が實に丁寧で一音一音（一語一語ではない）をはっきり発声するもので、大変聞き取り易いもので、初心者の私にとってヒントに思われた。通訳者もその影響か、大変丁寧な発声で實に明瞭で、私は専らそちらで内容を理解させて貰った。

奈良公園の散歩、前後の遠足などで少々歩き疲れたが、機関誌 La Movado で指導頂いている先生との交流もえられ、充実の三日間でした。

大会の運営にお世話頂いた KLEG、奈良エスペラント会の皆さん、誠に有り難うございました。

Mem faru ! (4)Fajrejo

TADA Rjuji

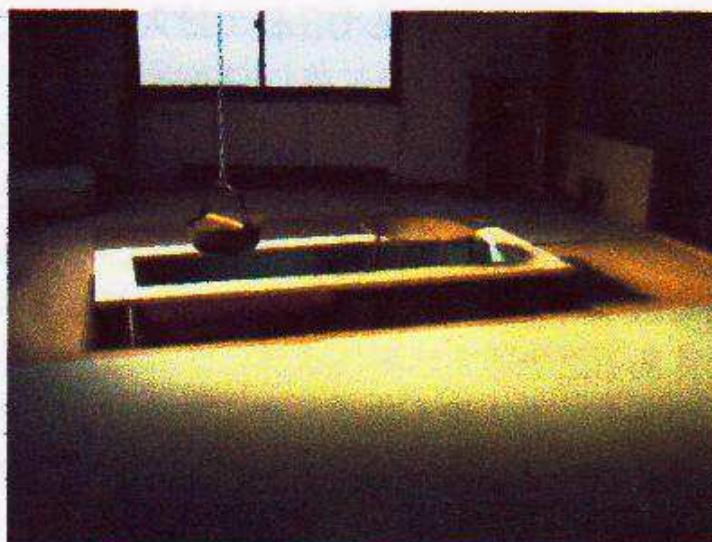
Mi amas trinki sakeon diskutante kun amikoj. Kompreneble ankaŭ kun miaj familio kaj kun parencoj. Mi deziras fari lokon, kie ni manĝas kaj trinkas ĉiuj kune. Mi ekpensis fari fajrejon "IRORI" Mi reformis du ladajn vestkestojn .

La du kestoj estis kunigitaj laŭlonge. Mi ĉirkaŭigis ĝin per ligna plato. Mi almetis kvar lignajn tablojn ĉirkaŭ ĝi. Mi enmetis sablon kaj lignokarbojn.

Fajrejo estas hejmsapiro. Mi sentas nostalgion pri pasinta infaneco. Kaj mi sopiras pri mia infaneco. Fajrejo estis centrejo de vivo en malnova tempo. Mi rememoras odoron de karba fajro, sonon de vaporo el kaldrono kaj bruon de avĉja ronkado. Kaj nun ĉiuj kunsidas ĉi tie. Mi okazigas almenaŭ kvar kunsidojn ĉuijare. Tie respektive kunvenas mia familio, parencoj kaj amikoj de diversaj gurpoj. La fajrejo estas en la Espo laborejo en INAMI urbo. Mi ĝuos kunsidon de vespera malvarmeto en la 24a de Jolio.

La menuo estas malvarmaj vermiĉeloj, fagopiraj nudeloj en korbo,fumajoj, akvomelonoj kaj trinkajoj.

Bonvolu veni al la fajrejo kaj ni kune trinku! Sed atentu antaŭsciigi vian viziton al mi.



イアン・ラブリーさん

峰 芳隆

3月の初めに、Ian Rapley という未知の人から、“Esperanto ni tsuite”という件名のメールを受け取った。一瞬何か、と思って開いてみると、日本語で、次のように書かれていた。

<Saluton! 峰芳隆先生

Ulrich Lins 先生からも後藤斎先生からも、峰芳隆先生が日本エスペラント運動史のご研究をなさっていらっしゃると伺いました。先生のご研究に関するお話をお聞かせいただけたらと思い、お便りを差し上げる次第です。

私は Ian Rapley と申します。現在英國オックスフォード大学大学院博士課程に在籍する学生として、日本近代史を研究しています。博士論文のテーマは 1920 年から 1930 年代の日本人・エスペランティストに関するものです。>

まだまだ続くがとりあえず、引用はここまで。原文どおりであるが、ご覧のように、日本語として非の打ち所がない。

早速、メールでのやり取りが始まったが、イアンさんは、エスペラントはまだ学習を始めたところということで、二人の共通語は今のところ、日本語である。

5月に来日して7月までの2ヶ月間、東京に滞在して資料集めをする予定とのことで、その間にお会いすることになった。5月 23 日、我が家に1泊してもらい、2日間、いろいろお話しした。

私には、もはや研究を続ける力が無いので、これまでに調べたことや考えたことをできる限り伝えることにした。そして、他では入手が難しい古い資料なども差し上げた。

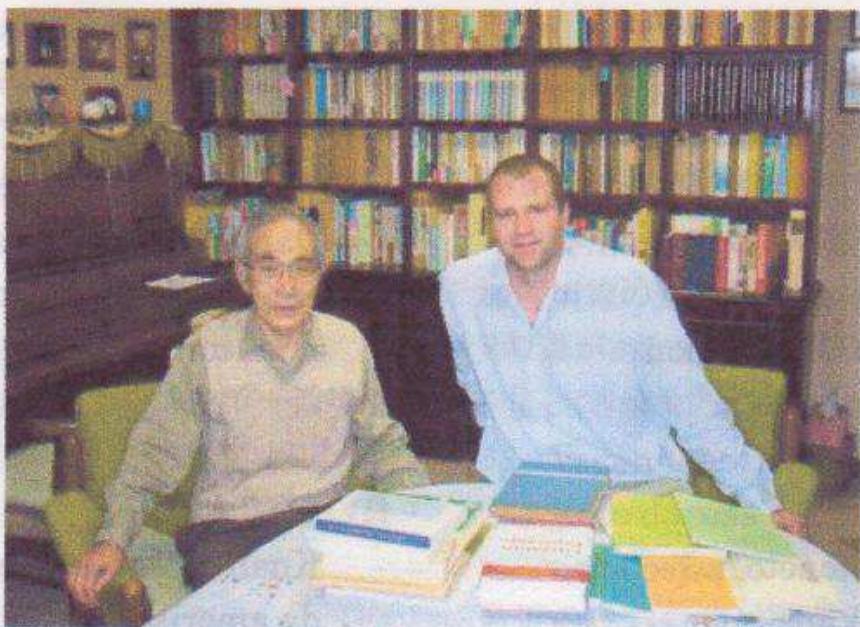
用語は、やはり日本語。イアンさんは、大学を卒業後、博士課程に戻るまでの間、金融関係の仕事に従事していて、東京にも 2 年間居たことがあるそうで、日本語での会話と読み書きには、ほとんど不自由しない。私の話したことのノートも、もちろん日本語で取っていた。固有名詞などは、紙に書いて伝えたが、これは日本人の間でもよくあること。

イアンさんは、その後、名古屋を経由して東京に戻り、さらに仙台へ行って東北大学の後藤斎さんに会い、さらに遠野物語の佐々木喜善のことを調べるために、岩手県の遠野まで足を延ばしたそうである。

6月末には、大本のエスペラント運動を調査するために、亀岡に来るとのことで、その中の一日、関西エスペラント連盟の事務所にも来てもらって再会した。

7月にイギリスへ帰国。来年、再び来日の予定とか。そして、博士論文を書き上げるのは数年先になるらしい。これからも協力を続けるが、どんなものになる

が楽しみである。また、二人の共通言語がエスペラントになる日も待ち遠しい。



「エスペラントは、かっこいい」

峰 芳隆

8月2日、ひとりの青年が、エスペラントについて聞きたいと、我が家にやって来た。稻美町の椎木真士（しいのき・まさし）さんで、20歳。

私たちが集まりに使っている加古川総合文化センターに掲示してもらっているポスターで見た、と電話があり、次の例会日8月22日まで待てない、ということで、その数日後に自宅でお会いすることになった。

エスペラントのことや、文法のABCを説明し、色んな本を見てもらった。本好きな青年で、私の説明を聞いて、「エスペラントはかっこいい。ザメンホフの考えもかっこいい。そのエスペラントをやっている人もかっこいい」と、手放しのほれこみようであった。彼によれば、現代では、他人のやらないことが「かっこいい」。もちろん、ボランティア活動も、「かっこいい」という。

彼は、若い人たちにエスペラントのことを知らせたい、エスペラントの仲間作りもしたい、という意気込みで、私も必要な支援は惜しまないと、伝えた。そして、参考になりそうな本を何冊か進呈した。

ところで、彼は、稻美町の自宅からおそらく10数キロはあるところを、炎天下、何と1時間かけて、自転車でやってきた。その若さの行動力には驚嘆するばかりであった。

考えてみると、私が活動を始めたのは彼と同じ年頃。姫路エスペラント会の組織作りに走り回り、講習会を始めたのは、23歳であった。自分の45年前の姿を見るようで、頼もしく、うれしく思った。彼の今後の活動に期待したい。

Rondo Hajkista に投稿して

馬場 祝栄

“La Movado”に「俳壇のコーナー」ができ、興味をもちました。第3回目(2004.12)から欠かさず投稿しています。3ヶ月ごとですので休まずに投句することをモットーにしてきましたが、なかなか上達いたしません。お笑いください。

(1) nepo と遊ぶ

Négo! nepeto
kriis, rigardis prujnon
sur la tegmento

Nepo fotita
per potelefoneto,
ludas kun ana'

2月になると、平荘湖に鴨達がたくさんやってきます。私は孫たちと一緒にパンくずを持って出かけます。えさをねだる鴨、パンくずを投げる孫が可愛くて、写メールを娘におくりました。

Sur riverbordo
Kolzoj floras tapiše
Ludas kun anas'

春になると、曇川(加古川の支流)の土手にからし菜がびっしりと咲き、その花にくる蝶々を追いかけるのが孫たちは大好きです。

Vidu cikadon
elſeligant sur arb'
Nepojn mi vokas.

我が家家の庭の木で、せみが脱皮しかけていました。この句は次のように添削されていました。

sur arbotrunko
cikado elſeligas
nepoj! venu tuj!

Dankas kaj brilas
sur la dolso de nepo
nova tornistro

孫が新一年生になりました。その喜びです。句としては、孫より子供で表すほうが良いそうです。

Knab' fiſas murte
da amerikaj kankuroj
forgesas tempon.

孫たちは我が家に来る楽しみの一つはザリガニ釣りです。バケツいっぱい取つて幼稚園にもって行きます。

Knaboj konkure
semojn de akvomelon'
jetas el buſo

播磨町の夏祭りではスイカ種飛ばしとか、ビーチサンダル飛ばしなどのゲームがあり楽しいです。

kunaboj kaſludas
en kosmosa kamparo
floroj dancantaj

加古川市の志方町に毎年巨大なコスモス畑がひろがります。そこで孫たちはかくれんぼするのが大好きです。

jetitan panon
sovaĝanasoj, karpoj
konkure manĝas

姫路城のお堀で鯉にパンくずを投げたら鳥も飛んできて孫たちは大喜びでした。

En vesperrugo
rugliberoj dancas,
infanoj ĉasas

rugôとrugの連続はこの場合良くない
そうです。次のように添削されました。

En vesperrugo
dancas rugaj libejoj,
infanoj ĉasas

(2) 母の思い出

En taglibreto
potlasita de l'panjo
ginka folio

Ruĝa libelo
sidas sur ŝultra' avina! A

Vidu etulo

夏休みになると生野町の魚ガ滝に遊び
に行きます。川で子供たちが遊ぶのを
母は岩に腰掛けてみていると、赤とんぼ
が来て母の膝に止まりました。母はとても
嬉しかったみたいです。

Patrino trikis;
apude mi, knabino
revas pri mi mem

母は編み物が大好き、暇さえあれば編
み棒を動かしていました。この句は過去
時制なので、これを現在時制にするほう
が情景を効果的に描写できるそうです。

Patrino trikas:
apude mi, knabino
revis pri mi mem

(3) その他

Mi per krajono
krokizas kosmoskampon.
Blovetas al floroj

私の趣味は絵を描くことです。コスモス
畑に行くとコスモスが風に揺れています。
そんな風景をキャンバスに現したい。

Hirundoj nestas
plafone de stacio
senfervojoista.

加古川線の無人駅・ひおか駅にはツバ
メの巣があります。春になると乗客の目
を優しくさせます。

Vagon-fenedtro
Koro dancas de ĝojoj
neĝa pejzaĝo

最近の冬の行事は雪景色を見に青春
18 切符で滋賀県牧野高原に行きます。
孫たちはおおはしゃぎ！

hundo ĝojgoje
kuras en lotuskampo-
varmeta tago

わが町はまだまだ田園風景があり、蓮華
畑があります。こんな時期は散歩も楽し
いです。

Apud lageto
iridoj floras flavaj-
neniu scias

私の好きな散歩道に小さなため池があり、
池の傍らに黄菖蒲がたくさん咲いていま
すが、知らない人が多いみたいです。

Kiel alaudo
mi volas flugi alten
en la aero

自転車で田畠の間の道を走ると、ひばり
の鳴き声が聞こえてきます。私は自転車
を止め空を見上げると、真っ青な空に二
つの点になったひばりを見つけました。

Sport-festibalo;

sub aŭtuna ĉielo

mi kuris lasta

小学生の時、私は徒競走が大嫌いでし
た。

malnova stolo

inter vintra vestoj

de mi manfarita

これは私の初めての彼への手作りブ
レゼントです。

Piano-Koncerto de mongola junulino

8月10日、姫路文学館のホールで、モンゴルのフレルバータル・トヤさんのピアノコンサートがあった。大本の人類愛善会（Universala Homama Asocio）の主催。トヤさんがエスペランチストであるとのことで、皆さんにもお知らせした。80人ぐらいの聴衆に、当会からは、曲田さん、中川さんと私たち夫婦の4人。それに大本の会員（大前、木根、久保田、小西、吉田）の皆さん全員参加。司会者と主催者代表（東播磨高校教頭で伊保にお住まいの塩谷誠さん）の挨拶は、いずれもエスペラントと日本語。トヤさんもエスペラントで挨拶。演奏会後の懇談会で聞いたところでは、トヤさんの祖父は有名なエスペランチストのドグスレン。トヤさんはエスペラントを1年前に学習を始めたが、大本の人との会話はもっぱらエスペラントとか。同席したモンゴルのもう一人の女性とインドから来た二人の女子学生もエスペラントの学習を始めているとのことであった。

(峰芳隆)

S-inoj Oomae kaj Yosida en Ulanbatoro

姫路の大前さんと吉田さんは、6月にモンゴルのウランバートルで開催されたアジアエスペラント大会に、それぞれ、ご夫婦で（大本のエスペラント普及会の旅行団に加わって）参加されました（写真の前列中央が大前さん、中列の中央が吉田さん）。



姫路の国際交流フェスティバルに参加します

姫路の国際交流フェスティバル実行委員会から、10月24日（日）に姫路の大手前公園で開催する第15回フェスティバルへの参加希望の有無のアンケートがありました。これは、毎年春に開催されているスプリングフェスティバルとは別のものだということで、これまでには、同フェスティバル実行委員会に参加している団体だけによるものだったようです。

今年は、15回記念ということで、姫路市国際交流センターの登録団体（はりまエスペラント会も登録団体）にも参加を呼びかけて、「スプリングフェスティバルの屋外版」に、という計画だそうです。

アンケートには、とりあえず、参加予定との回答をしました。そして、出展予定内容は、パネル展示とエスペラントの学習書の展示販売（「物品販売も可」とあるので）としました。

概要説明会というのが、8月22日の午前中に、イーグレひめじで開かれます。それを聞いた結果で、当会として、どういう内容で参加するかを相談したいと思います。昨年のパンフレットによれば、大手前公園全体を使った大きな規模で、歌や踊りのステージパフォーマンス、世界の料理、世界の遊び、異文化体験などがあります。

学習例会の記録

Kiam, kie, kiuj kune lernis?

<姫路：国際交流センター>

4月15日：中村、山岸、峰

5月13日：大前、木根、久保田、中川、中村、馬場、山岸、峰（中川さんが新しく加わりました）

6月17日：大前、久保田、中川、中村、馬場、山岸、峰

（7月は夏休み）

なお、姫路の大前さんと吉田さんは、6月にモンゴルで開催されたアジアエスペラント大会に、それぞれ、ご夫婦で（大本のエスペラント普及会の旅行団に加わって）参加されました。

<加古川：加古川総合文化センター>

4月25日：坂本、多田、塚本、南場、馬場、曲田、峰

5月16日：坂本、塚本、南場、曲田、峰

6月20日：久保田、坂本、多田、塚本、峰

（7月は夏休み）

今後の例会予定 (2010年8月～2010年12月)

Kie, kiam ni kunvenos?

★姫路 (午後2時～4時, 姫路国際交流センター)

8月19日(第3木曜日)

9月16日(第3木曜日)

10月21日(第3木曜日)

11月18日(第3木曜日)

いずれも第3木曜日で、会場は予約済みです。

引き続き、“Hanako lernas Esperanton”を読んでいます。この本に加えて、すでに修了した『エクスプレス・エスペラント語』の「解説」ページで文法の復習をしています。

なお、午後1時15分から2時までは、新しく学習を始めた方々のための入門講習を行なっています。

★加古川 (午後2時～4時, 加古川総合文化センター)

8月22日(第4日曜日)

9月26日(第4日曜日)

10月31日(第5日曜日)(10月の例会は24日の予定でしたが、同じ日に開催される姫路の国際交流フェスティバルに参加するため、変更します)

11月は28日(第4日曜日)の予定ですが、会場予約が3か月前のため、未確定です。

加古川では、“Vojago kun Katrina”を読んでいます。

→ サークル室

12月は、姫路と加古川合同のザメンホフ祭を予定しています。昨年は開けませんでしたが、今年はぜひ開きましょう。会場や内容について、皆さんのアイデアをお願いします。

編集後記

「雨混じりの雪」の間違いなど、坂本さんの「日・エス辞典」に対する指摘、驚くばかりです。 多田さんの「Mem faru」は4回目です。次号もお願いします。 立秋を過ぎても一向に涼しくなりません。「酷き夏河童の皿も鱗割れぬ」

次号の原稿は10月25日までにお願いします。

★★

“Verda Placo”(みどりのひろば) n-ro 10

2010年8月20日

発行：はりまエスペラント会 代表 峰 芳隆 高砂市北浜北脇 29-16

編集：南場 敏郎 加古川市平岡町城の宮 13A-102 nanba.tosiro@w8.dion.ne.jp

エスペラント



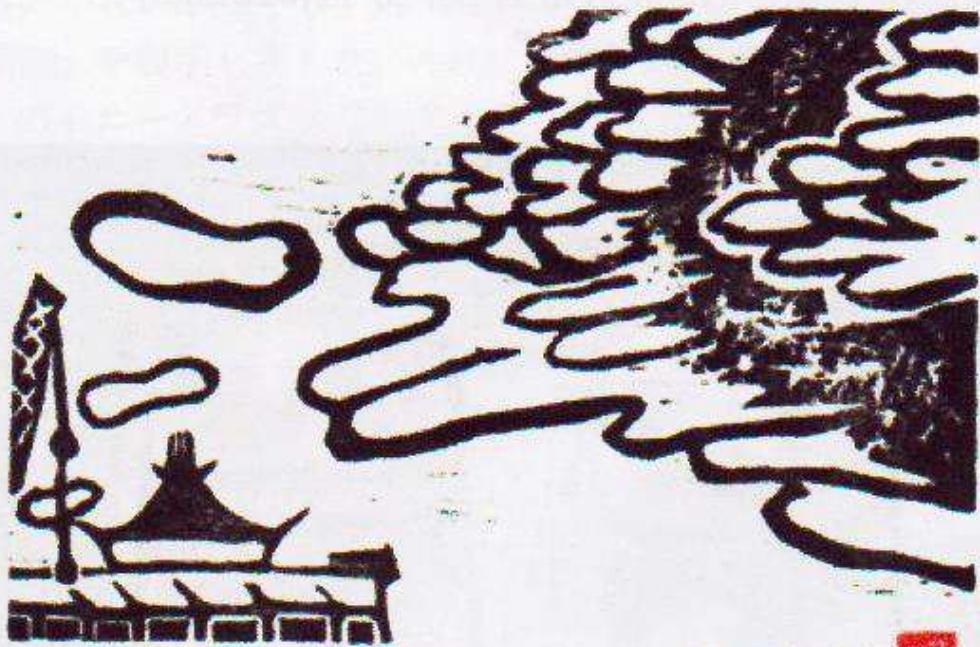
Verda Placo aŭtuno 2010

みどりのひろば

2010年秋

N-ro 11

Harima Esperanto-Societo (はりまエスペラント会)



2010年秋 緑の広場

Masako N.



Lignogravuraĵo de s·ino Nakamura Masako

Mem faru ! (5) Donaco

TADA Rjuji

Mi faris donacojn al mia edzino por la 40jara jubileo de geedzoj. Mi edziĝis oktobre antaŭ 40 jaroj. Mi estas sub la ŝuo de mia edzino dum 40 jaroj. Ni estu gajaj, ni uzu bone la vivon, ĉar la vivo ne estas longa. Si kreskigis du infanojn(filo kaj filino). Kaj ĉiu jam geedziĝis. Nun si havas kvin nepojn. La 40-jara jubileo de geedziĝo estas rubena jubileo.

Antaŭe mi iris al Osaka kun mia edzino. Tiam si havis sian kvardekan nasktagon. Mi devis klini min antaŭ ŝiaj sensencaj kapricoj. Mi aĉetigis min devigate kaj malvolonte fingroringon de rubeno, kaj tamen mi pagis de mia poŝmomo. Mi elspezis preskaŭ sekretan ŝparmonon por la fingroringo. Tiun ĉi fojon, mi havas bonan ideon.

“ Rubeno-Biero (Rubi-Biru)”

”Donacetoj subtenas amikecon(edzinecon)”.

Nur ni ŝanĝas ordon de la alfabetoj. Mi skulptis mesaĝon sur du glasoj por biero. La mesaĝo estas “Dankon al vi por la 14,613tagoj”

“Balecon taksas ne okulo, sed koro.”



国際交流フェスティバル参加記

10月24日、姫路の大手前公園で開催された第15回国際交流フェスティバルに参加しました。これは、春先に、「イーグレひめじ」の中で開催されている国際交流スプリングフェスティバルとは別のものです。「スプリング」は、姫路国際交流センターの登録団体によるものですが、この秋のフェスティバルには、これまで登録団体は参加していませんでした。しかし、今年は15回記念として特別に招待されました。約30ある登録団体のうち、13団体が参加しました。室内の「春」に対して、こちらは屋外で大手前公園全部を使った大規模なものです。ステージでの出し物と世界の食べ物、地場の産物の販売などが中心で、運営にもかなりの費用が必要と思われますが、われわれは参加費不要でした。おそらく、地元の協賛企業や料理や物品販売の商店などが負担しているのでしょうか。

出展のために提供されたのは、10m²ぐらいのテントと、パネル1つ、机1つ、椅子5つです。テントは、前日までに設置済みで、後片付けも不要でした。

24日朝9時に集まって、テント内の飾りつけなどの準備をしました。パネルには、群馬の堀泰雄さんに提供してもらった（九条の会が集めた）「エスペラント語で集めた世界の平和メッセージ」20枚とエスペラントの概要を書いた「エスペラント一分間講座」を展示しました。それに、テントの天井のパイプから、『ダーリンは外国人』のトニー・ラズロのエスペラント、『爆笑問題のニッポンの教養・田中克彦編』からの「エスペラント」のページのコピー、世界大会の写真などを呼び込みと装飾を兼ねて吊り下げました。

机の上には、"Esperanto per rekta metodo"の25言語版（計26冊）。それに無料で配布するための、例のチラシ「ホントの国際語ってなんだろう？」（100部）と小冊子『国際語エスペラントへの招待』（20部）、その他のコピー。音楽やパワーポイントの入門講座、DVDなどを再生するためのパソコンも（このパソコンは、周りの騒音に負けてしまって役立たずでしたが）。

10時の開会前からたくさん的人が集まり始めました。そこで、呼び込み、チラシを配布。意外にも若い人の中に、熱心に説明を聞いてくれる人が少なくありませんでした。年配者と違って、先入観なしで、新しいものとして好奇心を示してくれたようです。「芦屋エスペラント会でやったことがある」という人も居ました。用意したチラシと小冊子も、ほとんど無くなりました。これはうれしいことで、種まきとしてはまずまずの成果があったと思います。

景気づけに、中村さんのウクレレ伴奏で、"Certe venkos ni"（別掲）を歌いました。即席の説明を受けた若い人の中には、すぐに一緒に歌ってくれる人がいま



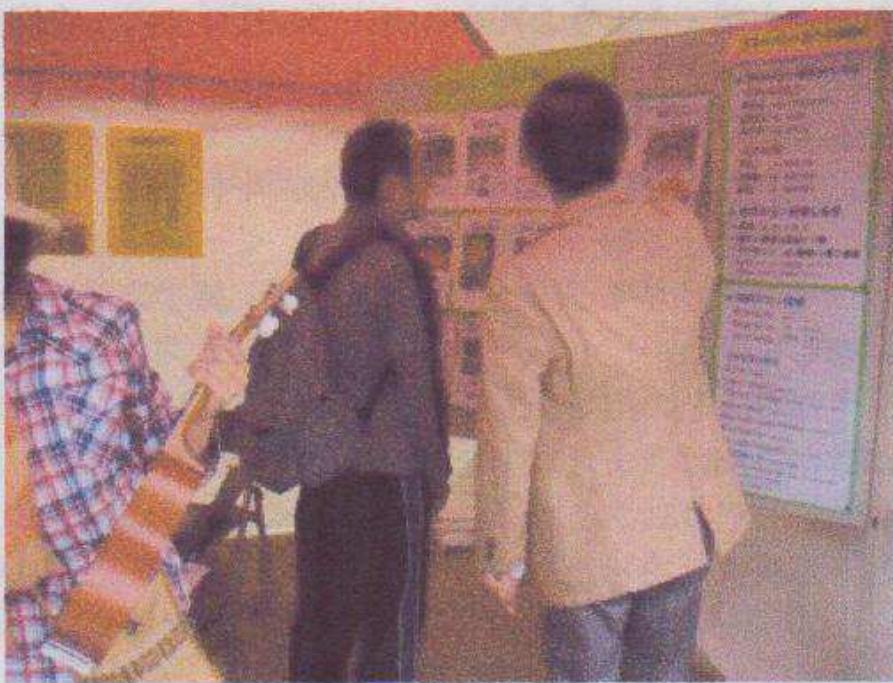
参加者達



サンシン（三線）を演奏する来生享子さん



説明する塚本さんと峰さん



青年に説明する塚本さん

した。歌詞の発音が比較的易しいことを判ってもらう効果があったと思います。この歌は、昔、ベトナム反戦の歌として、アメリカでも日本でもよく歌われたフォークソング”We shall overcome”的エスペラント訳です。通りがかりの人の中から「知っている」という声がかかるかも、と期待をしたのですが、それは空振りでした。やはり、時代遅れなのでしょうね。次の機会には、もっと知られている歌を用意するべきだと反省。『エクスプレス エスペラント語』に載っている”Al amiko malproksima”（はるかな友へ）も準備したのですが、これは、少し難しかったようです。



エスペラントで集めた世界の平和メッセージ

午後には、竹田さんの「阿弥陀サンバ（三板）」作りの仲間で、サンシン（三線）奏者の来生享子（きすぎ・きょうこ）さんが応援に駆けつけ、人寄せとして、演奏してくれました。たちまち人だかりができましたが、おかげさまで私たちも来生さんの演奏を生で楽しむことができました。

参加したのは、塚本さんと芳子夫人、山岸さん、中村さん、馬場さん、竹田さん、久保田さん、峰芳隆と多鶴子（順不同）。

曇り空でしたが、まずは天気と思っていたら、終了直前に雨が降り出し、早めに店じまいをしました。しかし、「春」とは比較にならない大勢の人出で、大変な賑わいで、色々な人との出会いもありました。来年は、どうなるかわかりませんが、呼びかけがあれば、また参加をしたいですね。

なお、恒例の「国際交流スプリングフェスティバル」は、来年2月27日（日）に開催されることが決まりました。今回の経験を生かしたいと思います。

(峰芳隆 Fotoj: s·ino Cukamoto)

Certe venkos ni

1. Certe venkos ni,
2. Certe venkos ni,
- Iam certe venkos ni!
- O krias la kor'.
- Jes, kredas mi.
- Iam certe venkos ni!

Ni ne timas plu,

- Ni ne timas plu,
- Hodiaŭ ni ne timas plu!
- O krias la kor'.
- Jes, kredas mi.
- Iam certe venkos ni!

Usona popolkanto

Trad. Konisi Gaku

3. Kune maršu ni,
- Kune maršu ni,
- Hodiaŭ kune maršu ni!
- O krias la kor'
- Jes, kredas mi.
- Iam certe venkos ni!

Kune kun Ryoei, mia nepo

Baba Tokie

“Avnj~o” “Je~s”

Ryoei vokas min laŭtvoĉe. Ankaŭ mi laŭtvoĉe same kiel li. Mi ripozas sur benko sub visteria pergolo.

Ryoei vokas min de tie kaj ĉi tie. Li elmontras la vizaĝon de malantaŭ arbo, aŭ tobogano, aŭ aliaj luda-aparatoj. Ryoei alvokas min per varia tono. Alta voĉo, malalta voĉo, laŭta voĉo, mallaŭta voĉo, rapida, malrapida, milda aŭ malmilda.

Mi respondas per lia tono. Li ŝajne pensas tion interesa. Li kuradas tien kaj reen. Kaj li alvokas min.

“Avnj~o” “Je~s”

Dum kelka tempo en la somera ĉirkaŭ tagmezo.

学習例会の記録

Kiam, kie, kiuj kune lernis?

<姫路：国際交流センター>

1月 28日：大前、小西成、中村、峰

2月 25日：大前、竹田、馬場、峰

3月 25日：大前、木根、竹田、中村、山岸、峰

この日から、新しく山岸裕子さんが参加されました。この日は、発音、文法入門編の説明をしましたので、他の人には復習になりました。4月からは、始まる前に45分間の入門講習をします。

<加古川：加古川総合文化センター>

1月 24日：坂本、多田、塚本、南場、馬場、峰

2月 21日：久保田、坂本、多田、塚本、南場、曲田、峰

これまで姫路に出席されていた久保田俱視さん（加古川市民！）が、初めて加古川に来られました。今後も都合がつく限り加古川にも出席されるそうです。

3月 21日：坂本、多田、塚本、峰

“Kial ni manĝas?”を読み終わり、“Vojaĝo kun Katrina”を読み始めました。「作文教室」の復習なども行なっています。 (峰記)

今後の例会予定 (2010年11月～2011年3月)

Kie, kiam ni kunvenos?

★姫路 (午後2時～4時, 姫路国際交流センター)

11月19日(第3木曜日)

1月20日(第3木曜日)

2月24日(第4木曜日)

2月27日(日曜日) 姫路国際交流スプリングフェスティバル

3月17日(第3木曜日)

会場は、いずれも第4会議室。予約済みです。

2月は会場の都合で、第4木曜になります。

引き続き、“Hanako lernas Esperanton”を読んでいます。この本に加えて、すでに修了した『エクスプレス・エスペラント語』の「解説」ページで文法の復習をしています。

なお、午後1時15分から2時までは、新しく学習を始めた方々のための入門講習を行なっています。

★加古川 (午後2時～4時, 加古川総合文化センター)

11月28日(第4日曜日)(会議室3)

1月23日(第4日曜日)(会議室3)

2月20日(第3日曜日)

3月20日(第3日曜日)

2月以降は、会場予約が3か月前のため、仮決めです。

加古川では、“Vojago kun Katrina”を読んでいます。

12月は、姫路と加古川合同のザメンホフ祭を予定しています。昨年は開けませんでしたが、今年はぜひ開きましょう。会場や内容について、皆さんの提案をお願いします。

編集後記

今号は10月24日に開催された「姫路国際交流フェスティバル」特集になりました。次号の原稿は1月15日までにお願いします。

★★

“Verda Placo”(みどりのひろば) n-ro 10 2010年10月30日

発行：はりまエスペラント会 代表 峰 芳隆 高砂市北浜北脇29-16

編集：南場 敏郎 加古川市平岡町城の宮 13A-102 nanba.tosiro@w8.dion.ne.jp

エスペラント



Verda Placo vintro 2011

みどりのひろば

2011年 冬

N-ro 12

Harima Esperanto-Societo (はりまエスペラント会)



“Seišun 18 biletō”

TADA Rjuji

Promeno interesas min. Mi fiksas al mi la celon, ke mi paſu 10,000 paſojn por unu tago. Mi ekpensis utiligi seiſun 18 biletton. Seiſun 18 biletō eatas speciala malkara biletō. La fervoja biletō estas valida tutu tago por JR en la tutu japanio. Sed, oni povas uziĝin nur por regiona trajno. La biletō estas valida por 5 tagoj aŭ 5 pasaĝeroj en la priodoj printempa(3/1~4/10), somera(7/20~9/10) kaj vintra(12/10~1/10). La prezo de la biletō estas 11500jenoj por 5 fojaj tuttagaj veturoj. Nome, la prezo de unutaga veturo estas 2300jenoj.

Mi vojaĝis al Takamacu, Kotohira, Tokushima, Hiroshima, Akou, Nagahama, Curuga, Izuši ktp. Mi ŝatas gustumi lokajn kuirajojn. Fojoje, mi vojaĝis kun amikoj. Frue en tiu ĉi jaro, mi vojaĝis kun tri amikoj al la sanktejo Konpirasan por la novjara vizito. Kompreneble, ni mangis la udonojn “Sanuki Udon” kaj drinkis sakeon. Mi uzas la biletton kiel paſo plezurigi nin kune pli multe.

ザメンホフ祭の報告

2010年ザメンホフ祭は、播磨町にある多田竜二さんのEsp-Laboで開催しました。2008年に続いて2回目。2009年は開かなかったので、2年ぶりです。

12月19日（日）11時から3時すぎまで。今回も昼食の準備を含めて、何から何まですべて多田さんのお世話になりました。

参加者は、佐野邦夫、坂本敏明、竹田華恵、多田竜二、塙本猛、中村雅子、南場敏郎、藤井富朗、峰多鶴子、峰芳隆の10人。

まず、パソコンとプロジェクター（+スピーカー）を使って、はりまエスペラント会の2010年の活動を写真で回顧。塙本さんが、いま話題のインターネットのYouTubeなどの動画サイトからコピーしたエスペラントの動画を紹介。アフリカのエスペランチストが踊りながら陽気に歌っている“Kiu lingvo por la homaro”，幼い子が主演の傑作“Bebo parolas en Esperanto”，アメリカの女子学生の一人語りなど（これらの動画は、イーグレひめじで開催されるスプリングフェスティバルのエスペラント紹介講座でも紹介の予定）。

続いて、食事をしながら、それぞれの近況報告。殻付きカキの炭火焼、多田さん特製の豚汁、それに取り寄せのお寿司。Tre bongustaj.

食後は、“Al amiko malproksima”などの歌。中村さんは、ウクレレを奏でて、

自作の歌“Senkyo's Rag”（選挙に行こう）と「カナリアの歌」。峰が本の紹介と販売。

最後は、前回と同じ「ダーツ」。賞品は、多田さんの提案で当日の会費（2000円）の余剰金から。トップ賞は、前回と同じく坂本さん。ご本人も絶好調の理由は判らないと、首をひねっていた。そして、Esp·Laboを見学して、時間がもつと欲しかったねと、別れを惜しみながら Gis la revido! と散会。

Koran dankon al s-ro Tada pro via bonega antaŭarango kaj bongustaj mangajoj!

(raportis Mine Yositaka)

(fotis Tada Ruji)



N-12

Senkyo's Rag

07 10/21



סְנִיקְיּוֹ אַתְּ תָּמֵן
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה



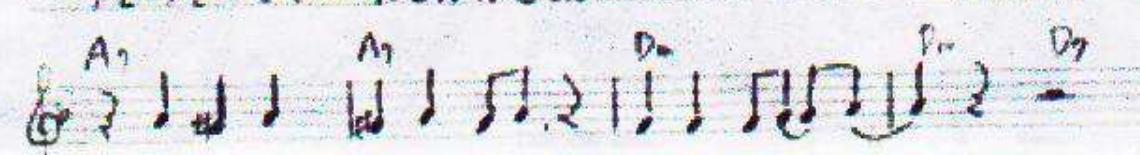
אַתְּ תָּמֵן
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה



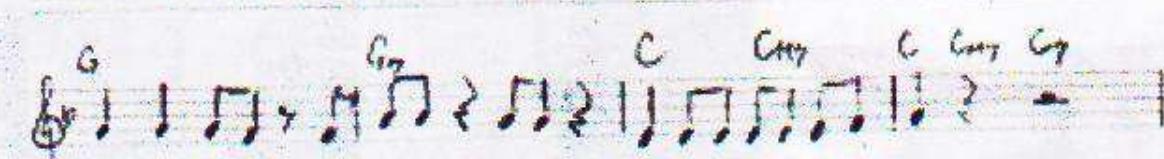
אַתְּ תָּמֵן
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה



אַתְּ תָּמֵן
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה



אַתְּ תָּמֵן
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה



אַתְּ תָּמֵן
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה
בְּלִבְנֵי כְּלִילָה

F A^b B^b F

G C F B^b F C

いのちを いのちを いのちを いのちを
いのちを いのちを いのちを いのちを

しお鹽いしまう お鹽い
今度の鹿鳴は
せうかわにいに一里
よろしく 鹿鳴ま
うざれんばかりに 千と振り
走り来る車
端午の五節
せしつけころづけ

x(ハカにすみのしはどこに
ウカた言葉にゆきだされぬか)

遙岸に行こう 遥岸に
イヤな奴 おじわり
新しい國起る人を待て)

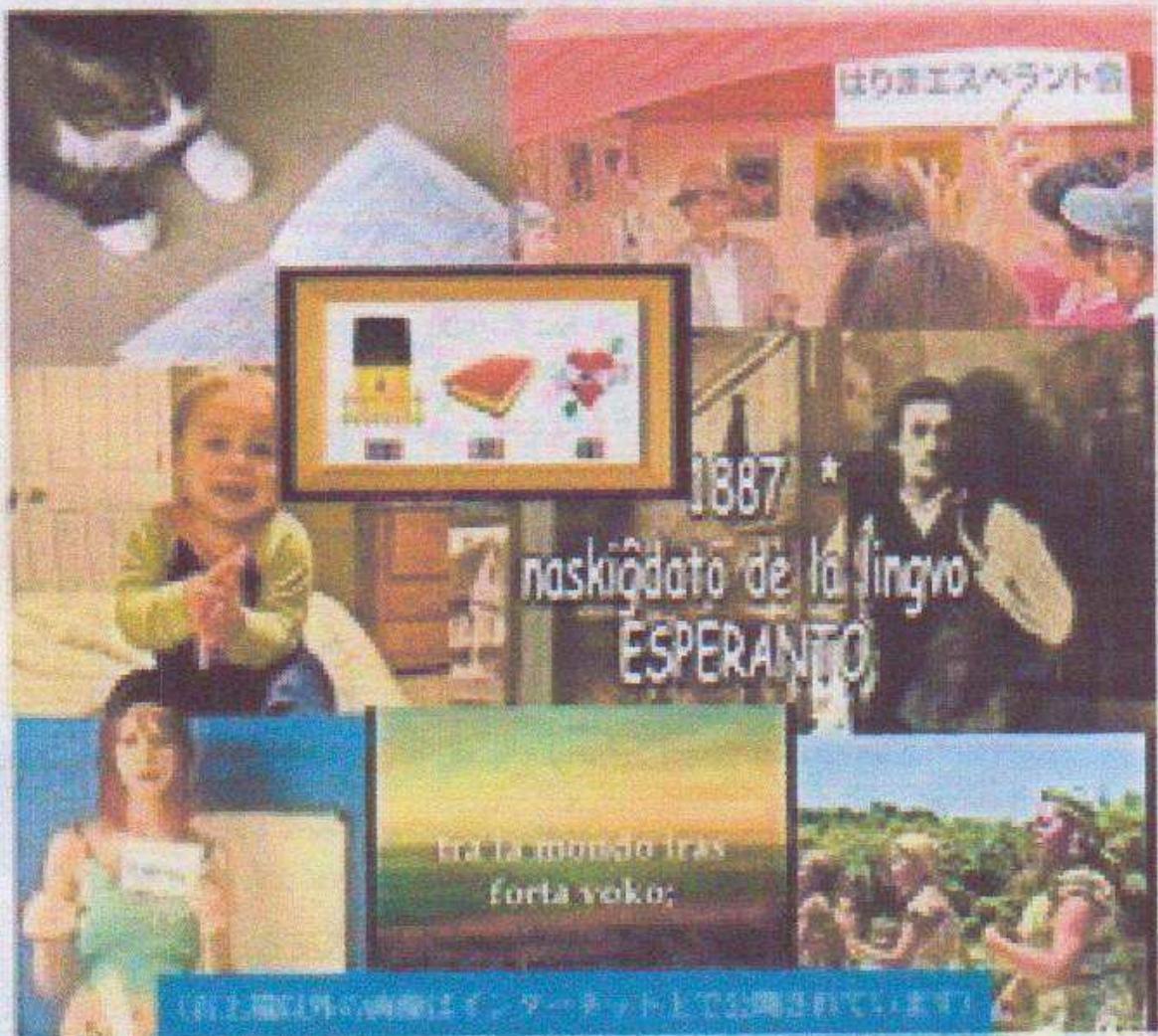
2. 國際夏研 国益にて
日本に何が
今日もあらゆる暮らし
苦しくなるばかり
仁多もせすに アリーナ
批判ある前に
ウミツキ さき師の
大人はどうなの
うねに行こう うねに
国食を うねに
みんなで新潟に
遊びに

スプリングフェスティバル参加計画

12月18日、姫路国際交流センター（イーグレひめじ）で打ち合わせ会があり、
2月27日（日）に同センターで開催される第7回スプリングフェスティバルへの
参加が正式に決定しました。このスプリングフェスティバルは、同センター登録

第1回国際交流会スクリーンショットアーティストの発表・国際音楽・映像コンサート

エスペラントに親しもう！



日時：2月27日（日） 内容：エスペラント歴史の講話をネット上の動画などで観る
第一部午前1時半～2時半 第一部題 国際交流会・スペラントの歴史
第二部午後1時～2時半 第二部題 楽曲の発表演奏

定員：10名（講）誰もいにじ第2部のみの参加也可)

会場：駒込国際文化交流センター 4階第3会議室

参加費無料、どなたでも参加していただけます

問い合わせ・申込み先：はりまエスペラント会事務局

電話・FAX 03-734-2802（携）

メール esperanto@hrim.or.jp お問い合わせの件名：00_02

本会は、モーリンの「」と、駒込国際文化交流センターで運営会を開催しています。2月27日は、駒込国際文化交流センターで開催されます。

団体によるもので、秋に屋外で開催される国際交流フェスティバルとは別ものです（名称がほとんど同じで、まぎらわしい）。

私たちは、登録団体になった2007年の第3回から参加して、今回が5回目です。初めの2回は展示だけでしたが、2009年からはワークショップとして紹介講座を開催してきました。今回も展示と紹介講座の組み合わせです。

今年の紹介講座の講師は、塚本猛さんにお願いしています。塚本さんは「エスペラントに親しもう！」をテーマに、次の2部構成でエスペラントを紹介するプランで、準備を進めています（ポスターも塚本さんが制作）。

- ・第1部（午前11時から12時：エスペラントの概要）
- ・第2部（午後1時～2時半：簡単な会話練習）

塚本さんは、また、インターネットの動画サイトから面白そうなものをダウンロードして、紹介したいということです（その一部は、ザメンホフ祭で見せてもらいました）。

お知り合いの方にお勧めください。エスペラントの動画を見たいという会員皆さんもどうぞ。

(Mine Yositaka)

En unu tago de mia novjaro

SAKAMOTO Tosiaki

Felican novjaron al vi ĉiuj kamaradoj. Mi supozas, ke vi ricevis mildajn kaj sanajn tagojn en la komennco de la jaro.

Nu, ĉu vi havas kutimon viziti jasiron en novjaro?

Ĉi jare ni geedzoj havis okazon viziti Aogaki jasiron kun veturo per nia aŭto.

Kien? Tie estas Aogaki-zono en urbo Tanba. Tien ni iam ofte vizitis por cerpi akvon fontan kun kelkaj akvujoj. (Sed nun ni cesis gajni la akvon jam de antaŭ longe.)

La Dio de la jasiro estas kiel granda tiel pli ol homoj kaj preciza artefarita figulo. La koloroj estas multe uzitaj. La Dio aspektas kolera nin. Ja valora vidindajo! Mi supozis, ke tial stelistoj celas la Dion. Kaj loĝantaroj prenis kontraŭ rimedon ligi per ĉienoj sur la piedoj de la Dio.

Plu veturnis la vojon nacian al Ikuno. Sed la vojo estas monta kaj mallarĝa. Ĉu vere nacia? Certe voj-indikilo montras “Grand-aŭto malfacile” Se mi eltrovus alian aŭton antaŭen, mi de Post la tagmanĝo (manfaritaj fagopiraj

nudeloj estas bongustaj) ni vus serci pli rargan lokon gis la aŭto venos ĉe mi. Kelkfoje mi iam veturis ĉi tiun vojon, sed nun mi plenis prudentitan agon, ĉar mi nun estas akompanita mian edzinon. Kia bonkoreco! Dank` al Dio nia veturado atingis al unu granda kaj bela lago Ginzanko. Intermontaj kaj vintra akvo estas precipa klara. En la somero oni neniel povas vidi ĉi tia koloran puran akvon. Tiakiale mia koro estas ravita kaj pura. Ho, ni jam devas reveni hajmen . Ĉu ni iom rapidu! Trapaſis la urbetojn Ikuno, Kamikaŭa, Icikaŭa, Fukusaki kaj urbo Kasai , apenaŭ atingis en nia urbo Kakogawa. Tiam estis malhela tempo.

Souši kaj patkuko

BABA Tokie

Hodiaŭ nia kolazono estas patkuko. Mia nepeto Souši ŝatas baki patkukon. Rapide li iras preni bildliblon de “Patkuko de balanka urso.”

Li bakas patkukon kiel la bildliblo. Li enmetas tarunon en bovlon, kaj enmetas ovon, sukeron kaj lakton. Li kirlas per ŝoūmigilo.

Li varmiĝas paton kaj enmetas kuirkuleron da materialon en paton.

De ĉi tiam.

Li fikse rigardas kaj luolas konkureson kun la bildliblo.

Ĝi ekeferverkas “butu butu.”

Ĉu ni povas renversi patkukon?

Li diras “ankoraŭ ne.”

Plu eterveskas “ butu butu.”

“Ankoraŭ ne.”

Jen rigarrudu, eferveskas kiel la bildliblo.

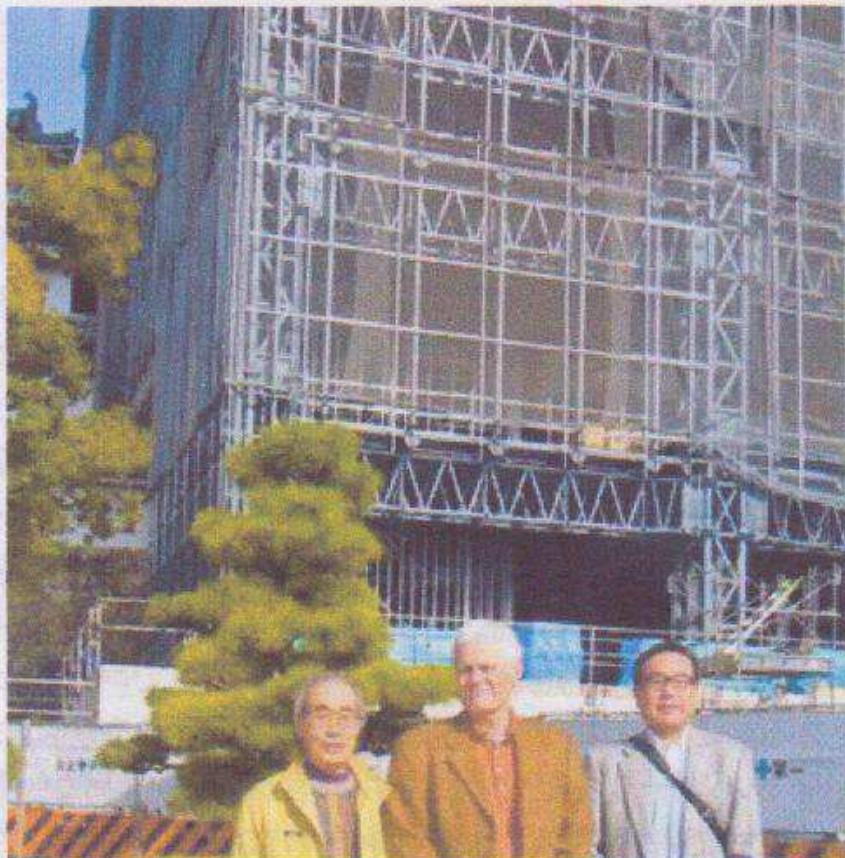
“Bone!!”

“Jen ni renversas patkukon.”

Revesa bak-koloro estas kiel la baldliblo. Souši ridas je kontenta vizago.

リンスさん來訪

11月30日、ドイツのUlrich Linsさんと東京の東海林信行さんが姫路に来られました。リンスさんは、岩波新書『危険な言語』*の原著“La danĝera lingvo”



の著者として知られているエスペランチストで歴史学者です。日本人女性と結婚して、現在はボンに住んでいます。この冬は、川崎市に住んでいる娘さんのところにしばらく滞在するとのことで、11月末に関西に来られたのでお会いしました。東海林さんは、亡くなられた伊東幹治さんのザメンホフ全集 *Plena Verkado de Zamenhof* の膨大な出版図書を管理されている方で、同じ時期に関西に行く用事があるからと連絡があり、3人でお会いすることになりました。

姫路城は、天守閣は修繕工事のため足場で覆われていたのですが、西の丸などを見学しました。イーグレひめじの屋上からお城のパノラマ風景を見たあと近くで昼食。その後、拙宅に来ていただいて歓談。リンスさんは日独文化交流の仕事で日本に住んで居られたことがあるのですが、ゆっくりと話をしたのは、これが初めて。本や雑誌、それに「ザメンホフ全集」のことなど、3人に共通の話題が多く、あれこれと話に花が咲いて、気が付けば8時。姫路駅までお送りして、再会を約しました。

(峰芳隆)

- 栗栖継訳、1975年出版

「宮沢賢治におけるエスペラント」

峰 芳隆

★はじめに

宮沢賢治がエスペラントを学習し、エスペラントで書かれた八編の詩を残していることは、すでによく知られている。しかし、賢治におけるエスペラントについては、謎が多い。ここでは、それらのことについて考察してみたい。

★「イーハトーブ」の謎

宮沢賢治とエスペラントに関する第一の謎は、「イーハトーヴ」の語源問題であろう。『イーハトーヴ童話・注文の多い料理店』には、「イーハトーヴはひとつの地名である」とあり、この「地名」の由来が研究者を悩ませ、諸説が提示されている。しかし、その中には、明らかにこじつけの荒唐無稽な説も少なくない。また、いつのころからか、「イーハトーヴは、エスペラントでユートピア（あるいは岩手）のことである」というような珍説までも、まことしやかにまかり通っている。ところが、「イーハトーヴ」という単語は、宮沢賢治の時代も現在も、エスペラントの辞書には載っていない。エスペラントの文法では、固有名詞を含めて、名詞の語尾は、o（オー）である。また、エスペラントの単語では、アクセントはつねに後から第二音節にあり、その音節は少し長くのばすことになっている。したがって、「イハトーヴオ」(Ihatovo) であれば、エスペラントの造語ルールに従った名称であるといえる。のちに述べる「センダート」などは、このルールで造語された例である。もちろん、ihatovo（イハトーヴオ）という単語は、エスペラントには存在しない。これは、エスペラントを深く学習しなくとも、単に学習書や辞書を見るだけで、誰にでもすぐに分かる程度の初步的な知識である。

では、「イーハトーヴ」とは何か。これは、岩手の旧カナづかい表記の「イハテ」から、ロシア語の影響による「イハトフ」を経由してつくられたという説が有力である。これは、おそらくトルストイの影響であろう。それが、のちにエスペラントの影響を受けて、「イーハトーヴオ」あるいは「イーハトーボ」と変えられたのである。後述する「ポラン」が「ポラーノ」になったのと同じである。そして、それらがことばの形としてはエスペラント的であるため、原形の「イーハトーヴ」もエスペラントであるというまことしやかな珍説が考え出され、流布され、信じられ、定着したのだと考えられる。したがって、これは話の順序がまったく逆である。

ところで、ロシア語風の「イハトフ」から、なぜ、「イーハトーヴ」になったのか、という疑問が残る。私は、賢治の美意識のはたらき以外に、ロシア革命直後という時代背景から考えて、その影響であることを隠すためのカムフラージュで

あると推理している。

★学習時期の謎

以前の年譜には、一九二二年一月にエスペラント語の独習をはじめた、という記述が載っていたが、『校本全集』以降、その記述がなくなった。おそらく文献として、それを証明するものが見つからなかったためであろう。しかし、そのことが、この時期に学習を始めなかつたという証明にはならない。よく知られているように、宮沢賢治は、一九二六年一二月に、オルガンやタイプとともに、エスペラントを「本格的に」学習するために上京した。ということは、やはりそれ以前から学習を試みていたと考えるのが妥当である。

学習のきっかけとして考えられることは、当時の社会的背景がある。一九二〇年台の前半は、第一次世界大戦の終了後、国際連盟が成立し、岩手県出身の新渡戸稻造がその事務次長になるということもあって、特に知識人や学生の間に国際社会と世界平和に対する関心がたかまつた時代である。その中で、中立の国際共通語であるエスペラントの学習熱もたかまり、エスペラントが社会的な常識になるような風潮があった。

賢治が購読していた雑誌『改造』の一九二二年八月号には、「エスペラント語研究」が特集され、「国際語エスペラント講座」の連載も始まった。さらにその後しばらくの間、同誌の表紙にはタイトルが「LAREKONSTRUO」とエスペラントで記されるといった調子であった。同号の「編輯を了へて」には、「本誌が時代の要求に応じて、エスペラント講座を新設した・・・」云々と記されているが、このことが当時の知識階層のエスペラントに対する関心のありかたを示している。なお、この号には、賢治が後にめぐり合うことになるラムステットも寄稿している。

さて、最近の佐藤勝一氏の研究によって、当時の花巻や盛岡にも、一九一九年に創立された日本エスペラント学会の会員がいたことが明らかになった。しかも、盛岡中学の教師や同人誌の仲間にもエスペランチストがいたということで、賢治とエスペラントの接点は少なくなかつたのである。

さらに、佐々木喜善の影響も考えられる。この人は、柳田国男に『遠野物語』の素材を提供した人で、日本エスペラント学会の会員であった。喜善は、岩手の新聞や雑誌にエスペラントの宣伝記事を頻繁に書き、熱心にエスペラントの普及に努めていた。後のことになるが、一九三二年、喜善が花巻でエスペラントの講習会を開いたとき、賢治がそれを援助している。

ところで、この佐々木喜善にエスペラントをすすめたのは、柳田国男であった。柳田は、当時日本エスペラント学会の理事で、一九二六年十月には、東京で開かれた日本エスペラント大会の議長をつとめたが、それは賢治が学習のために上京

する二ヵ月前のことである。また、賢治と同じ東北出身の劇作家秋田雨雀が、エロシェンコの影響でエスペランチストになり、エスペラントの普及に力を入れたのもこのころである。

賢治は、このような社会的風潮の中で、エスペラントを知り、その学習を始めたのであろう。

★学習目的の謎

一九二二年に独習をはじめた時には、自らがそれで著作するというはっきりした意志は、まだ持っていないかったのではないだろうか。もちろん、中立的な共通言語で平等なコミュニケーションができる世界の創生、という理想への共鳴があったということは十分に考えられる。しかし、一九二六年の「本格的な」学習再開の時には、著作のための言語という明確な目的を持っていたのではないだろうか。

一九二四年に詩集『春と修羅』と童話集『注文の多い料理店』を自費出版したが、まったく売れなかつた。一九二六年一一月賢治は、来訪した小菅健吉に、「世界の人に解ってもらうようエスペラントで発表するため、その勉強をしている」と語った、と伝えられている。世界を相手にエスペラントで作品を書く、そのためわざわざ上京して個人教授を受けたのであろう。

さらに、一九二六年の暮れに、東京でフィンランドのラムステットの講演を聞き、そのラムステットと話をしたことを報告した父への手紙の中で、「やっぱり著述はエスペラントによるのが一番ですね」と言われたと書いてある。「やっぱり」というのは、それまでにこのような考えがあつて、それを再確認したということを考えるのが順当であろう。

★作品への影響

そのように決心して取り組んだエスペラントであるが、それで文学作品を著作することは容易ではなかつた。残念ながら、日本語のように使いこなす域に達する前に挫折した。はじめに短歌や詩という、散文よりも技術的に難しい韻文に取り組んだのも謎である。なぜ童話から取り組まなかつたのか。

さて作品への直接の影響として、「ポラーノの広場」などの作品の中にみられる地名と人名のエスペラント化がある。ポラーノ、イーハトーボ、モリーオ、センダート、トキーオ、ファゼーロ、ロザーロ、ミーロ、テーモ、デステウパーゴなどがそれである。いずれも、語尾は 。(オー)、うしろから第二音節が長音になるという、エスペラントの規則通りの命名である。エスペラントでは、外来の固有名詞も、同じルールでエスペラント化することができる。例えば、ロンドンは Londono (ロンドーノ)、パリは Parizo (パリーゾ) など。したがつて、固有名

詞がこのようにエスペラント化された作品は、エスペラントの学習開始後に書かれた、あるいは書き直されたと考えられる。

これを手がかりにすれば、エスペラント学習の時期、あるいは逆に作品の著作時期を推定できるはずである。また、このように考えると、「ポラン」は明らかに「ポラーノ」の祖形であり、「ポラーノ」の語源をポーランド語に求める、などという説は的外れのこじつけである。

★命名の謎

「貝の火」の主人公「ホモイ」は、不思議な名前である。エスペラントで人を意味する homo (ホーモ) に、複数語尾 j (y [イ] の発音、ただし子音のためアクセント位置は変わらず) を付けると homoj (ホーモイ：人々) になる。しかしなぜ複数形であるのか。賢治はそこに何らかのメッセージを込めたのかも知れない。

もうひとつ、「やまなし」の「クランボン」について。エスペラントには、krambo (クランボ) という単語がある。当時のエス和辞典には「甘藍の一種」あるいは「はまはぼたん」(現在の辞書では「ハマキヤベツ」) と載っている。これに、エスペラントの目的格の n を付けると、krambon 「クランボン」(ハマキヤベツを) になる。しかし、これは固有名詞としては奇妙な造語であり、エスペラントに由来するものと断言することはできないのだが、。

★ザメンホフの影響

賢治の「農民芸術概論綱領」には、「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」、あるいは「新たな時代は世界が一の意識になり生物となる方向である」というコトバがある。

一方、エスペラントの創始者ザメンホフは、ロシア支配下にあったポーランドのユダヤ人で、自分たちの民族の救済問題から世界人類の共存に考えを発展させて、エスペラントを考案するとともに、人類人主義…エスペラントで Homaranismo (ホマラニスモ) …という人類の一員であるという自覚を行動の規範にしよう、という素朴ではあるが普遍的な考えを提唱した。これが、世界に目を向けはじめた当時の日本の若い人たちの心をとらえた。佐々木喜善も、エスペラント普及活動の中でこの「ホマラニスモ」を強調している。

ザメンホフは、その「ホマラニスモに関する宣言」において、「私は人間である。私は、全人類を一つの家族を見なす。私は、人類が互いに敵対するさまざまな人種や民族宗教の集団に分裂しているのは最大の不幸の一つであり、この事態は遅かれ早かれ消滅しなければならず、その消滅ができるだけ促進するのが私の義務と考える」(水野義明訳) ということを述べている。

一九二三年には、このような理想主義でつらぬかれたザメンホフの伝記の日本

語訳が出版された。スイス人エドモン・プリバー（この人は、ロマン・ロランの友人でもあった）の『ザメンホフの生涯』の日本語訳『愛の人・ザメンホフ』である。その「まえがき」で、エスペラント運動の若きリーダーであった小坂狷二が、ザメンホフを無私の人として、次のように書いている。「世の中には憐れむべき、不幸な人が沢山ある。…自分以外の者のために流す、人間としての尊い、純な涙を枯渇さしてしまった人もある。（中略）此等諸々の衆生を済度しようと云うのがザメンホフの大願である」。当時の若者が多くがこのようなコトバにひかれたのであり、賢治もその一人であった可能性がある。

こうしてみると、エスペラントおよびザメンホフの影響は、単なる著作のための言葉にとどまらず、彼の思想にも大きな影響を与えたのではないだろうか。

★おわりに

賢治については、ありとあらゆる角度からの研究がなされているが、どういうわけか、エスペラントからのアプローチはきわめて少ない。私が一九九六年に編集した『宮沢賢治とエスペラント』という小冊子には、それまでの主要な研究論文を網羅できたほどである。その状況は、生誕百周年のブームの中でも変わらなかつた。しかし、賢治におけるエスペラントの重要性は、決して小さくないはずで、それは、この稿を読んでもらえば納得してもらえると思う。賢治研究において手付かずの分野は少ないが、エスペラントからの研究は、残された数少ない穴場ではないだろうか。

なお、エスペラントは、エスペラント語と表示される場合もあるが、日本「語」の場合のように、「日本」という民族や国家・地域と結びついているものではないので、通常は単に「エスペラント」とし、「語」を付けない。この稿でも、引用以外では、「エスペラント」とした。

（みね・よしたか：エスペランチスト）

参考文献

佐藤勝一：宮沢賢治「エスペラント詩稿」の成立（一）、一九九六年、『岩手県立宮古短期大学研究紀要』第六卷

野島安太郎著、峰芳隆編：宮沢賢治とエスペラント、一九九六年、リベーロイ社
原子朗：新・宮澤賢治語彙辞典、一九九九年、東京書籍

山田野理夫：遠野物語の人－わが佐々木喜善伝、一九七四年、椿書院

エドモン・プリヴァー著、松崎克巳訳：愛の人・ザメンホフ、一九二三年、日本エスペラント学会

L.L.ザメンホフ著・述、水野義明編・訳：国際共通語の思想（「ホマラニスモに関する宣言」収録）、一九九七年、新泉社

（「国文学 解釈と鑑賞 特集 宮沢賢治 謎の世界」至文堂 2000年2月）

学習例会の記録

Kie, kiam, kiuj kune lernis?

<姫路：国際交流センター>

10月21日：大前，久保田，中村，中川，馬場，山岸，峰

11月18日：小西，中村，中川，山岸，峰

<加古川：加古川総合文化センター>

10月31日：坂本，多田，塚本，南場，曲田，峰

11月28日：久保田，坂本，多田，塚本，南場，峰

今後の例会予定 (2011年1月～2011年6月)

Kie, kiam ni kunvenos?

★姫路（午後2時～4時、姫路国際交流センター）

1月20日（第3木曜日）第4会議室

2月24日（第4木曜日）第4会議室

3月17日（第3木曜日）第4会議室

4月21日（第3木曜日）第4会議室

5月19日（第3木曜日）第6会議室（第4ではありません）

6月16日（第3木曜日）第4会議室

会場は、いずれも予約済みです。

2月は会場の都合で、第4木曜になります。

引き続き，“Hanako lernas Esperanton”を読んでいます。この本に加えて、すでに修了した『エクスプレス・エスペラント語』の「解説」ページで文法の復習をしています。午後1時15分から2時までは、復習をしています。

★加古川（午後2時～4時、加古川総合文化センター）

1月23日（第4日曜日）会議室3

2月20日（第3日曜日）サークル室3（図書館2階）

3月20日（第3日曜日）サークル室1（図書館2階）

4月17日（第3日曜日）会議室3

5月15日（第3日曜日）

6月26日（第4日曜日）

5月以降は、会場予約が3か月前のため、仮決めです。

加古川では、“Vojago kun Katrina”を読んでいます。――

編集後記にかえて

NHK教育テレビ、水曜日の夜、「こだわり人物伝」なるものが放送されています。今日は宮沢賢治です。一番手は山折哲雄氏が賢治の宗教観について、続いて中村桂子氏が生命誌を研究する立場から話しています。【宮沢賢治は、DNAもゲノムも知らないわけですが、サイエンスへの強い興味と自然に対する独自の直観力とで自然の物語を読み取り描き出しています。そこには進歩した科学でわかつてきたことを先取りしているように見えることが多くあり、驚かされます。】と。

三番手は、チェリストの藤原真理氏が賢治の作品に励まされたことを【セロ弾きのゴーシュ】を中心に話しています。【『セロ弾きのゴーシュ』を初めて読んだ時から、いまも、賢治の作品を読み、彼自身のことを考えると、私にはこのくらいしか才能がないとか、このくらいの体力しかない、とあきらめてしまわず最善を尽くそう、そう励まされるのです。】と。

最後は、宮沢賢治の作品を多く英訳しているロジャー・パルバース氏が次のように話しています。

【宮沢賢治の作品を翻訳する場合、おそらく他のどの日本作家を翻訳する場合り大きな問題が生じる。大きな問題とは、彼独自のユニークな言葉遣いだ。

賢治の日本語は、ひらがなが続くと思うと難しい漢字がぱっと出てきて字面が読みにくいし、唐突にエスペラント語や科学用語が出てきて飛躍があるからわかりにくい。まるで外国人が書いてる日本語だ。

翻訳する際、ぼくはいつも賢治になりきって『もし賢治が英語で書くとすれば、どんな文体を使い、どんな単語を選ぶだろう』と想像する。そうするとトランス状態のようになる。賢治は使う言葉は、あまり耳にしない音、あまり目にしない単語がたくさん出てくる。だから、辞書の言葉をそのままあてはめるのではなく、賢治が使いそうな英単語を想像しなくてはならない。】

そして、ロジャー・パルバース氏は【二一世紀になって、やっとぼくらが彼の思想を理解しつつある。宮沢賢治はようやく『二〇世紀最大の日本の作家』として認識されるようになったところだ。だから日本でも研究が足りない、まだまだこれから、二一世紀の作家なのだ。】と結んでいます。

次号の原稿は、4月10日までにお願いします。

★★

“Verda Placo”（みどりのひろば） n-ro 12 2011年1月22日

発行：はりまエスペラント会 代表 峰 芳隆 高砂市北浜北脇 29-16

編集：南場 敏郎 加古川市平岡町城の宮 13A-102 nanba.tosiro@w8.dion.ne.jp